

# 食品ロスに関する県民意識調査 報告書

令和3年10月

秋田県生活環境部

## 目次

|                             |    |
|-----------------------------|----|
| <b>I. 調査概要</b>              | 1  |
| 1. 調査の目的                    | 1  |
| 2. 調査の内容                    | 1  |
| 3. 調査の設計                    | 1  |
| 4. 回収結果                     | 1  |
| 5. 集計・分析に当たって               | 1  |
| 6. 標本抽出                     | 2  |
| 7. 標本内訳                     | 3  |
| <b>II. 調査結果</b>             | 4  |
| 8. 結果集計                     | 4  |
| （1）回答者の基本事項                 | 4  |
| （2）食品ロスへの関心について             | 7  |
| （3）家庭における食品ロスを削減する取組について    | 17 |
| （4）買い物をするときの食品ロスを削減する取組について | 26 |
| （5）外食するときの食品ロスを削減する取組について   | 34 |
| （6）災害に備えた備蓄食品の廃棄を防ぐ取組について   | 38 |
| （7）フードバンク活動などについて           | 41 |
| （8）資源やエネルギーの有効活用などについて      | 44 |

# I. 調査概要

## 1. 調査の目的

県民の食品ロスに関する意識や行動等の実態を把握し、今年度策定する食品ロスの削減を推進する計画や施策の立案に活用することを目的に実施する。

## 2. 調査の内容

- (1) あなた自身について
- (2) 食品ロスへの関心について
- (3) 家庭における食品ロスを削減する取組について
- (4) 買い物をするときの食品ロスを削減する取組について
- (5) 外食をするときの食品ロスを削減する取組について
- (6) 災害に備えた備蓄食品の廃棄を防ぐ取組について
- (7) フードバンク活動などについて
- (8) 資源やエネルギーの有効活用などについて

## 3. 調査の設計

- (1) 調査対象者：秋田県に居住する満 18 歳以上の男女
- (2) 標本数：3,000 人
- (3) 標本抽出方法：全県 25 市町村の選挙人名簿を基にした層化抽出法
- (4) 調査手法：郵送による調査票の配布
- (5) 調査期間：令和 3 年 7 月 3 日～7 月 23 日
- (6) 調査機関：株式会社東京商工リサーチ

## 4. 回収結果

- (1) 調査票回収数 1,652 人
- (2) 回収率 55.1%

## 5. 集計・分析に当たって

- (1) 比率(%)は、小数点以下第2位を四捨五入して表示する。このため、各回答の比率の合計が100%にならないことがある。
- (2) 調査結果において、設問ごとに母数が異なる場合がある。複数回答の設問について、当該設問に回答した者数(無回答者を除く)で算出しているため、全体の母数(n=1652)と異なる。

## 6. 標本抽出

(1) 母集団全体から一部を抽出する標本調査では、何らかの誤差が生じる。本調査では、標本回収率 50%、信頼度 95%、標本誤差 2.5%と設定し、3,000 人の標本を抽出した。

(2) 無作為抽出した場合の誤差は、次の式によって求められる。

$$(\text{標本誤差}) = k \sqrt{\frac{(M-n)}{(M-1)} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

M : 母集団  
 n : 有効回答数  
 k : 信頼率による定数(※)  
 p : 回答比率  
 ※一般的に信頼率95%とすることが多く、その場合、 $k = 1.96$ となる。

(3) 「信頼度」95% ( $k=1.96$ ) の「標本誤差」は次の表の通りである。

| 回答の比率<br>標本数 | 10%  | 20%  | 30%  | 40%  | 50%  |
|--------------|------|------|------|------|------|
| 3500         | ±1.0 | ±1.3 | ±1.5 | ±1.6 | ±1.7 |
| 3000         | ±1.1 | ±1.4 | ±1.6 | ±1.8 | ±1.8 |
| 2000         | ±1.3 | ±1.8 | ±2.0 | ±2.1 | ±2.2 |
| 1000         | ±1.9 | ±2.5 | ±2.8 | ±3.0 | ±3.1 |
| 500          | ±2.6 | ±3.5 | ±4.0 | ±4.3 | ±4.4 |

(4) 例えば、全体の 40%から「知っている」という回答が得られた場合、95%の確率で母割合（県民が「知っている」と考える割合）を  $40\% \pm 1.8\%$  の範囲内に含むことを意味する。



## 7. 標本内訳

| 地域名   | 市町村名  | 標本数   |
|-------|-------|-------|
|       | (全県)  | 3,000 |
| 鹿角地域  | 鹿角市   | 92    |
|       | 小坂町   | 15    |
| 北秋田地域 | 大館市   | 218   |
|       | 北秋田市  | 97    |
|       | 上小阿仁村 | 7     |
| 山本地域  | 能代市   | 161   |
|       | 藤里町   | 10    |
|       | 三種町   | 50    |
|       | 八峰町   | 22    |
| 秋田地域  | 秋田市   | 929   |
|       | 男鹿市   | 84    |
|       | 五城目町  | 28    |
|       | 八郎潟町  | 18    |
|       | 潟上市   | 99    |
|       | 井川町   | 15    |
|       | 大潟村   | 9     |
| 由利地域  | 由利本荘市 | 231   |
|       | にかほ市  | 74    |
| 仙北地域  | 大仙市   | 245   |
|       | 仙北市   | 79    |
|       | 美郷町   | 59    |
| 平鹿地域  | 横手市   | 269   |
| 雄勝地域  | 湯沢市   | 136   |
|       | 羽後町   | 44    |
|       | 東成瀬村  | 8     |

## II. 調査結果

### 8. 結果集計

食品ロス問題を認知して削減に取り組む消費者数・割合

1,487名、90.0%

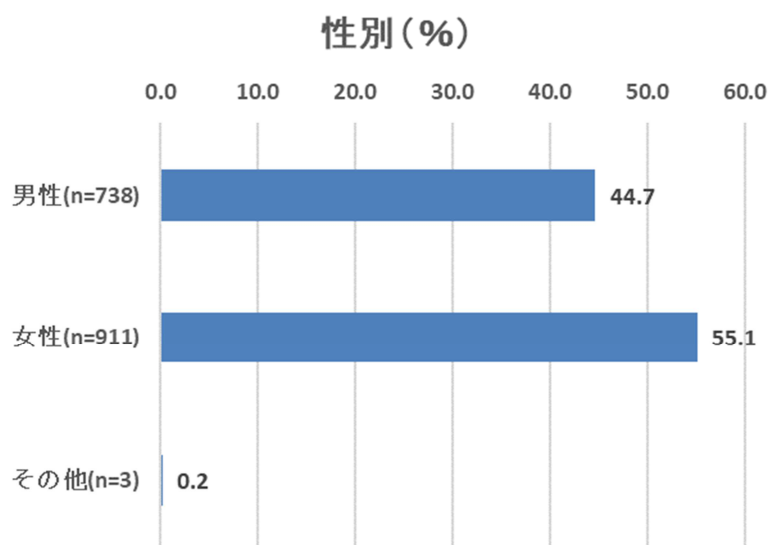
※算出方法：設問2. 1（A又はB）を選択した人であって、設問2. 4（B～D）又は設問3. 1（A～E）又は設問3. 2（A～C）又は設問3. 3（A～D）又は設問4. 3（A～F）又は設問5. 1（A）又は設問5. 2（A～D）又は設問6. 1（A～E）のいずれかを選択（実施）している人の割合

上記で食品ロスがSDGsの目標になっていることを知らない人数・割合

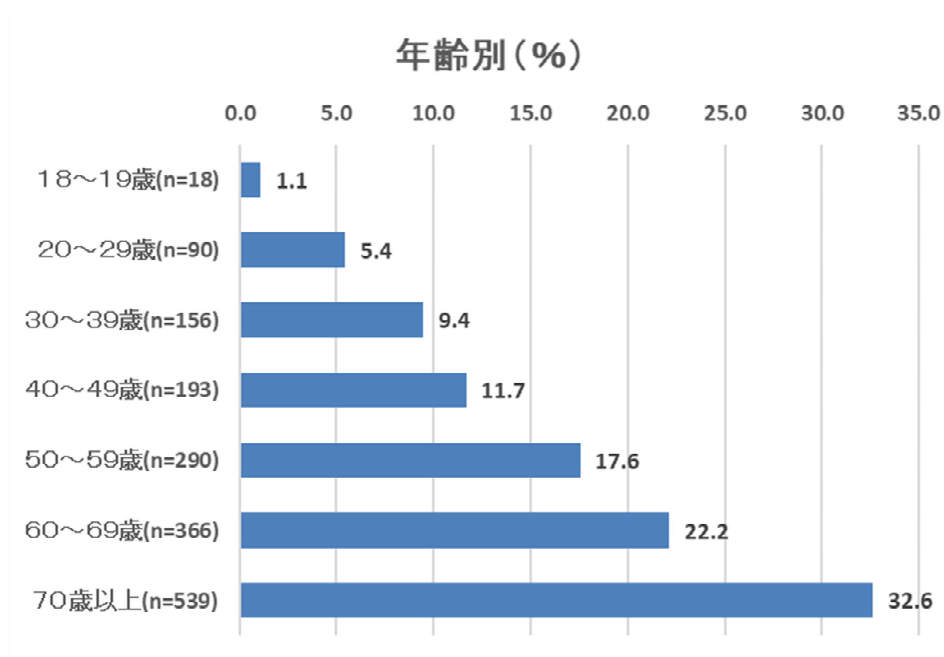
758名、51.0%

#### （1）回答者の基本事項

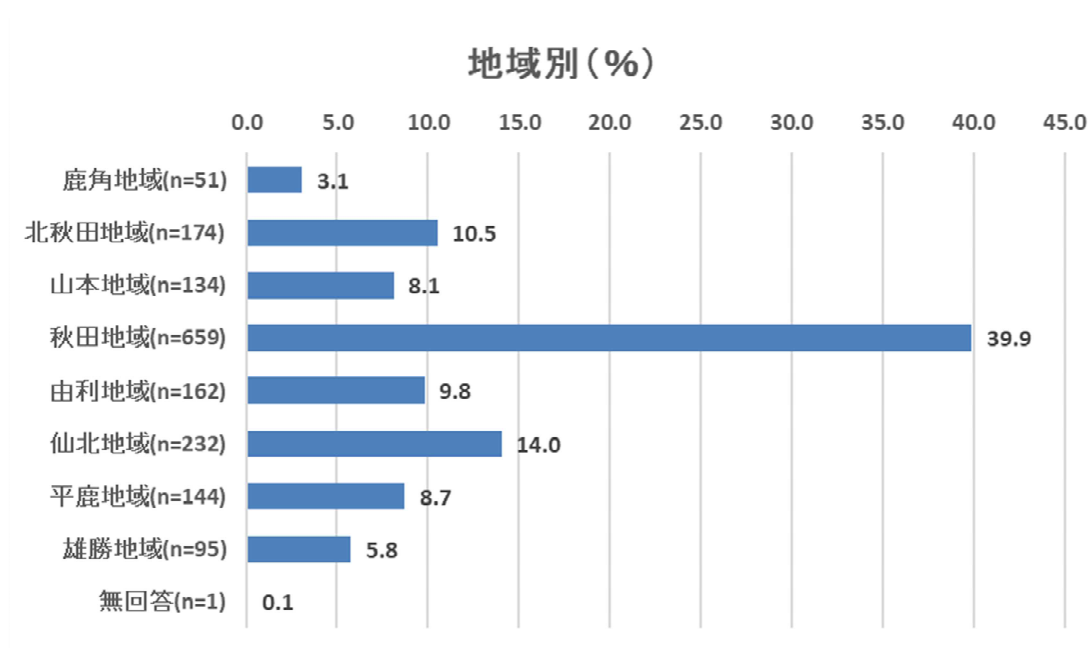
##### 問1－1 回答者の性別



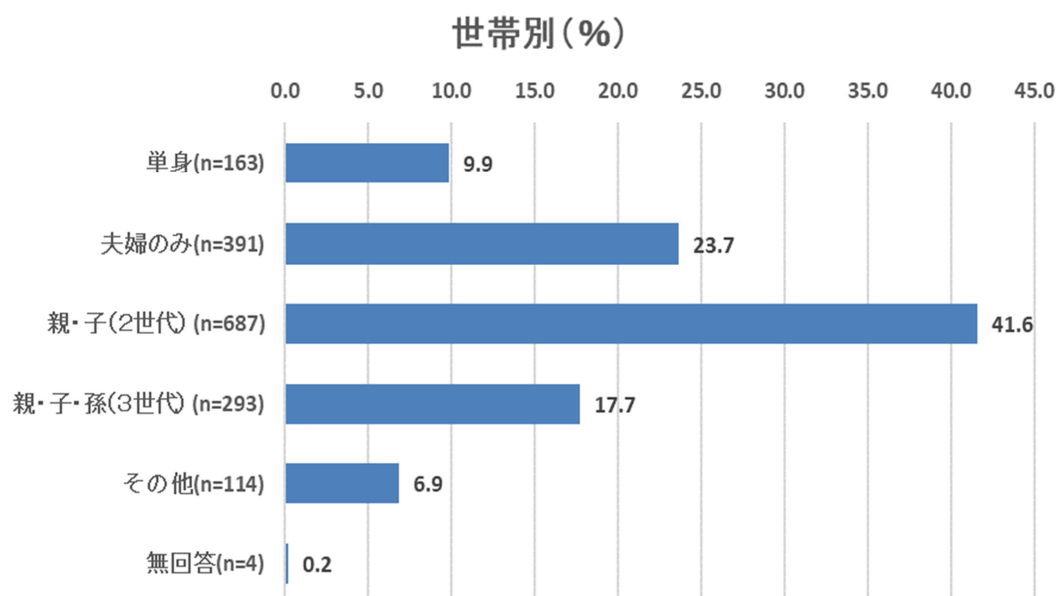
## 問 1－2 年齢別



## 問 1－3 地域別

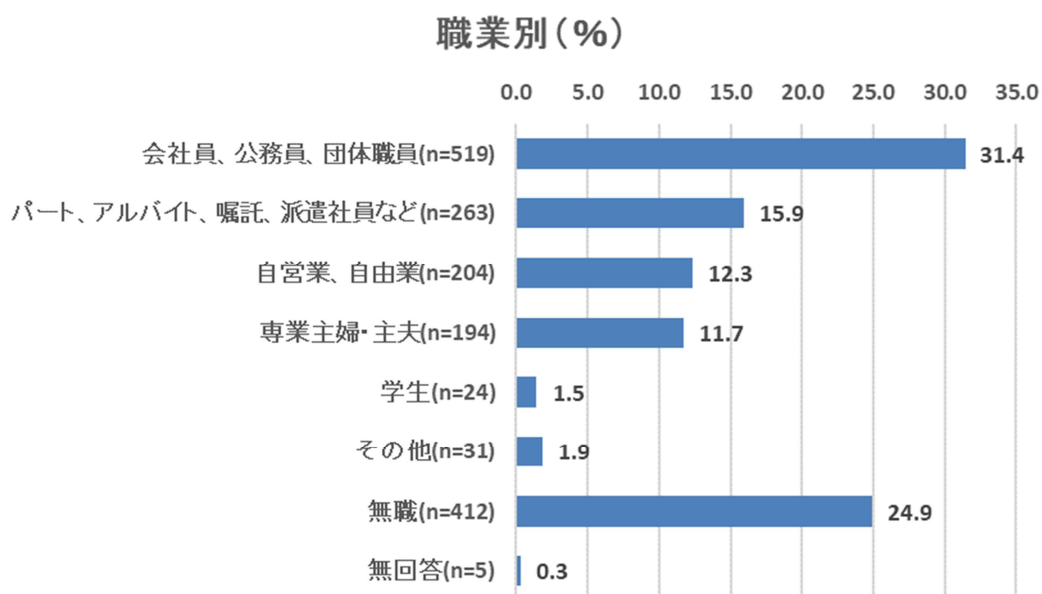


#### 問 1－4 世帯別



単身 (n=163) のうち、60 歳以上が全体の 85.9%を占める。夫婦のみ (n=391) のうち、60 歳以上が 78.0%を占める。

#### 問 1－5 職業別

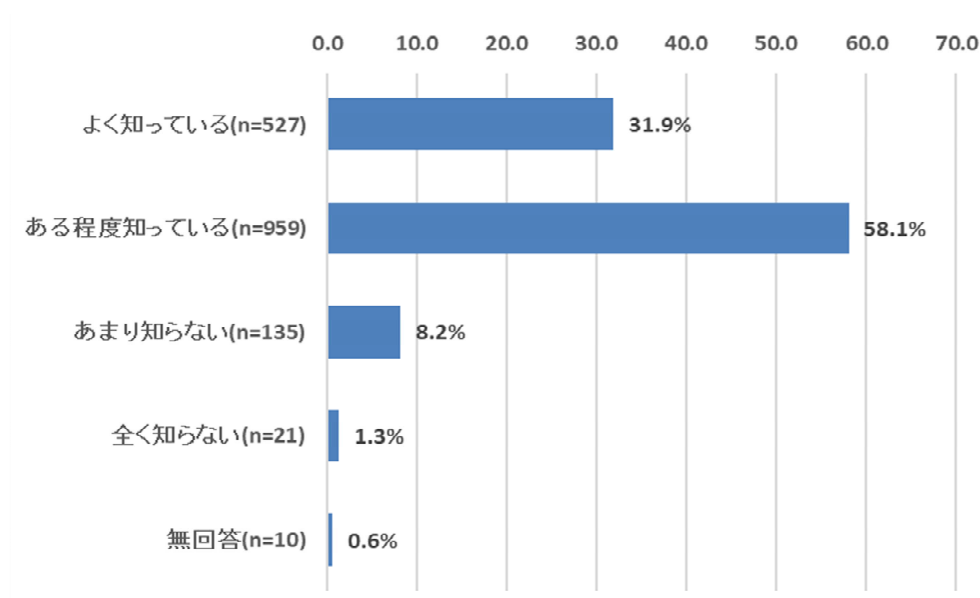


その他の回答

- ・施設関係    ・会社役員    ・家事手伝い    ・看護師    ・大学職員    ・神職    ・美容師
- ・会計年度職員    ・年金受給者    ・製造業

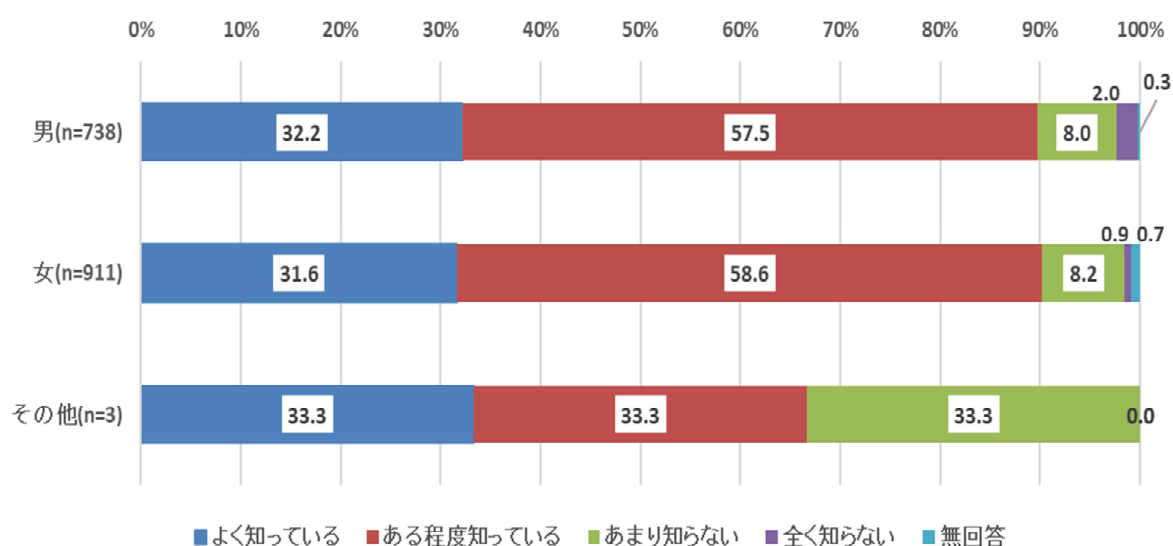
## （２）食品ロスへの関心について

問２－１ あなたは、食品ロス（食品廃棄物）が社会的問題となっていることを知っていますか。



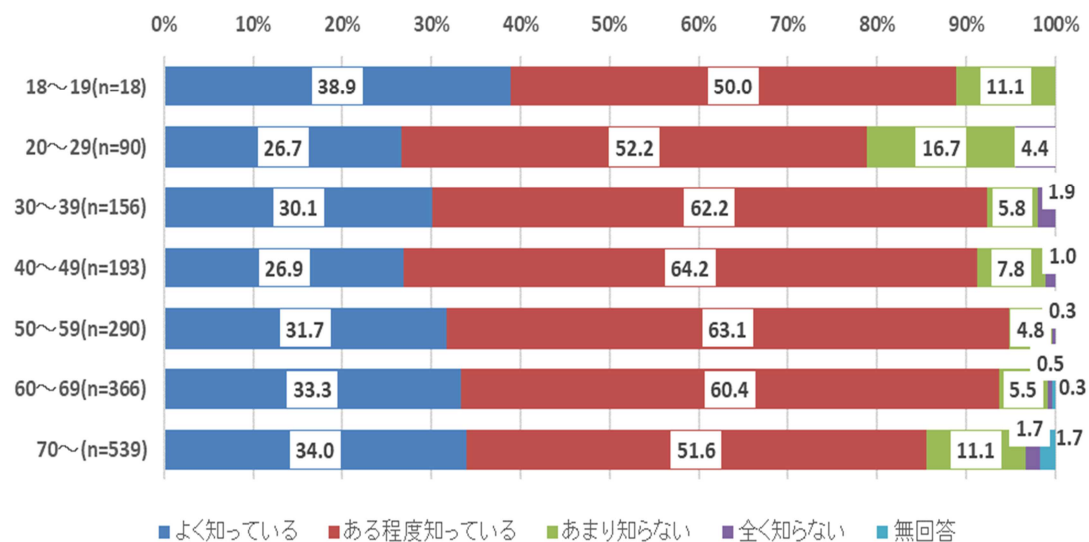
食品ロス（食品廃棄物）が社会的問題となっていることを知っているかを尋ねたところ、「ある程度知っている」が 58.1%、「よく知っている」が 31.9% となり、知っていると回答した割合が全体の 90.0% を占める結果となった。

### 問２－１ × 性別



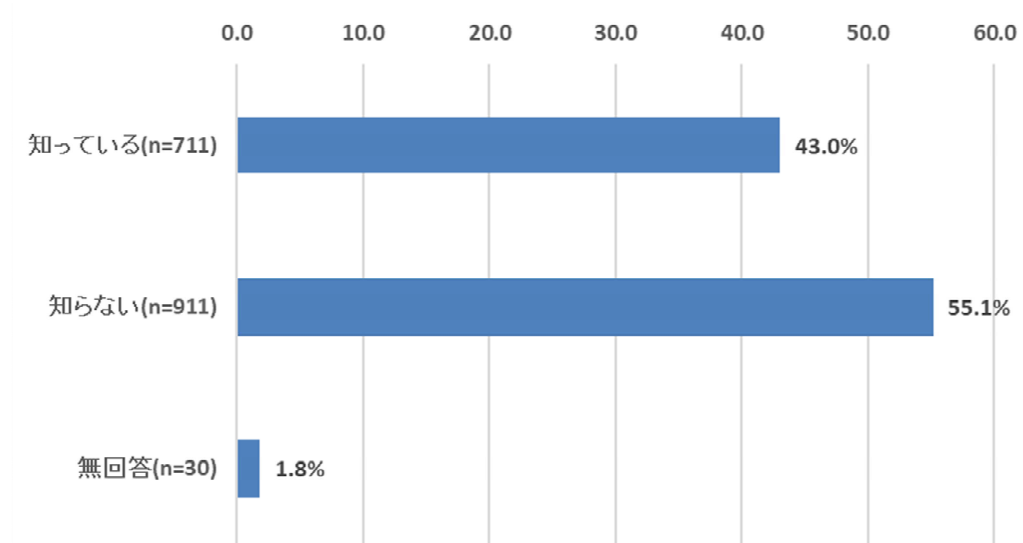
食品ロスの認知度を性別別でみると、「よく知っている」が男性 32.2%、女性 31.6%、「ある程度知っている」が男性 57.5%、女性が 58.6% となった。「よく知っている」、「ある程度知っている」を合わせた割合は、男性で 89.7%、女性で 90.2% となった。

## 問 2－1 × 年齢



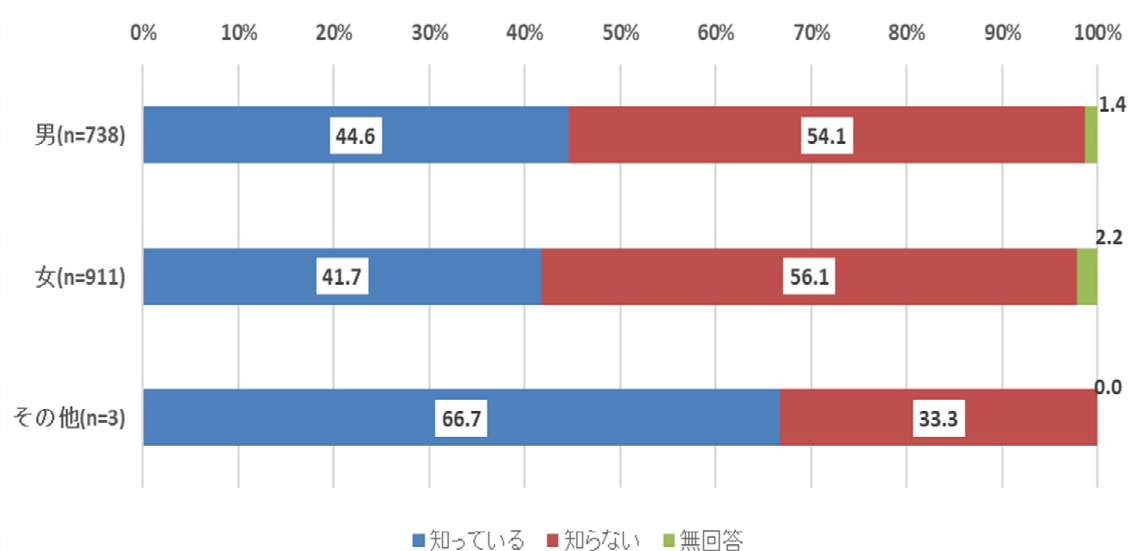
食品ロスの認知度を年齢別でみると、「よく知っている」の割合が最も高いのは「18～19歳」で38.9%、「ある程度知っている」の割合が最も高いのは「40～49歳」で64.2%となった。「よく知っている」、「ある程度知っている」を合わせた割合では、「50～59歳」が94.8%と高く、最も低い「20～29歳」の78.9%と比較すると、15.9ポイントの開きがあった。

## 問２－２ あなたは食品ロスがSDGsの目標になっていることを知っていますか。



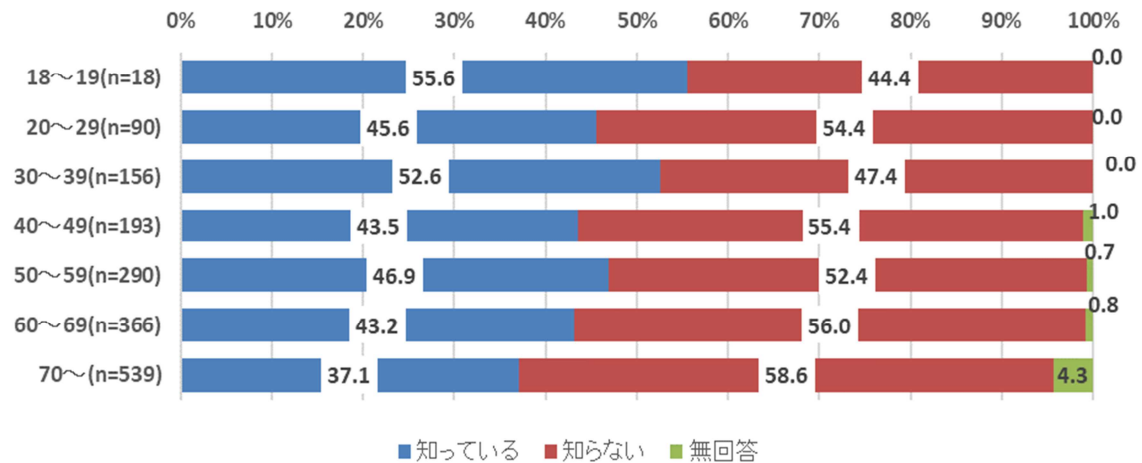
食品ロスがSDGsの目標になっていることを知っているか尋ねたところ、「知らない」が55.1%、「知っている」が43.0%となり、「知らない」が半数を占める結果となった。

## 問２－２×性別



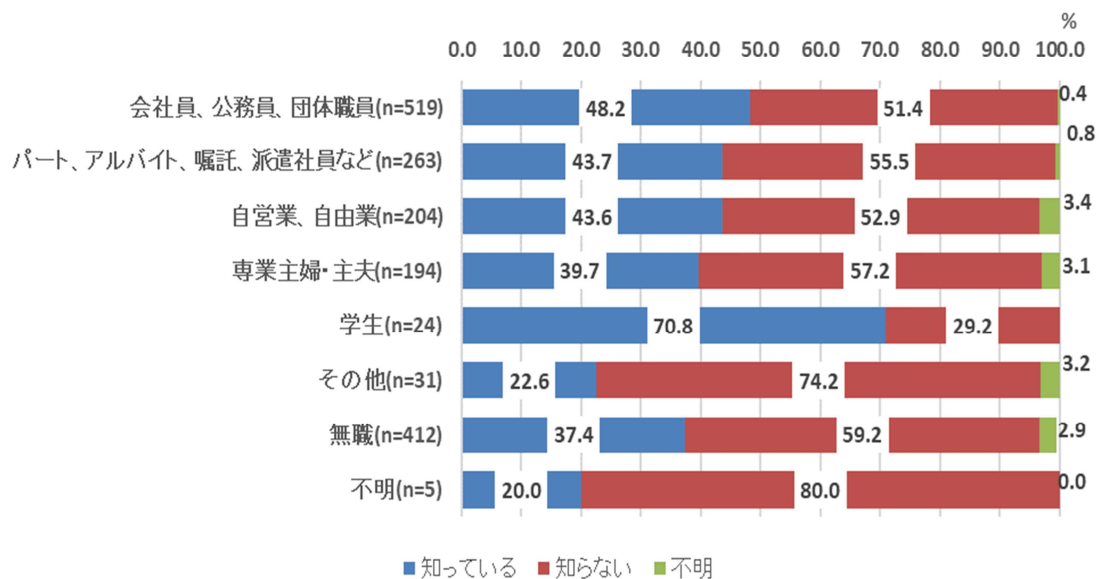
食品ロスがSDGsの目標になっていることを性別で見ると、「知らない」の割合は「男性」が54.1%、「女性」が56.1%となった。「知らない」と回答した割合が半数を超える結果となり、認知はあまり進んでいないことが判明した。

## 問 2－2 × 年齢



食品ロスがSDGsの目標になっていることを年齢別でみると、「知っている」の割合が半数を超えているのは、「18～19歳」の55.6%、「30～39歳」の52.6%となっている。「20～29歳」も45.6%と高く、比較的若年層における認知が進んでいる傾向がみられた。

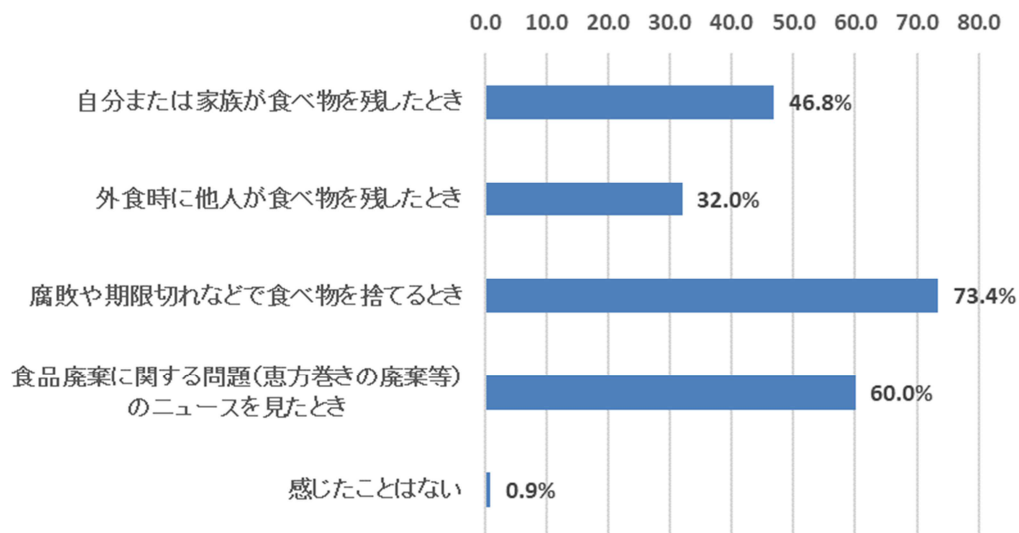
## 問 2－2 × 職業別



食品ロスがSDGsの目標になっていることを職業別でみると、「知っている」の割合が最も高いのは学生で70.8%となった。次いで、「会社員、公務員、団体職員」が48.2%、「パート、アルバイト、嘱託、派遣社員」が43.7%となった。



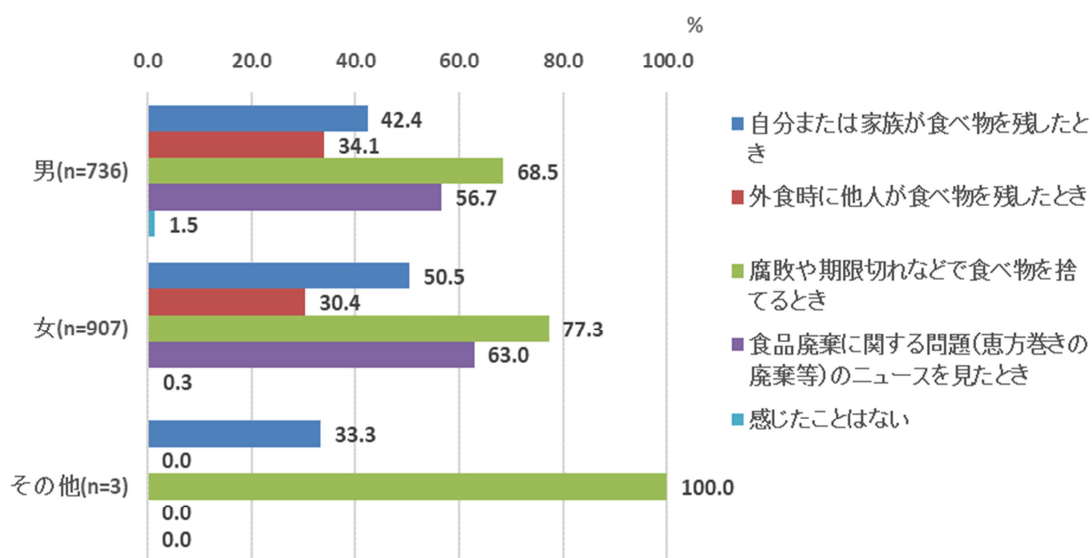
**問２－３ あなたは、食生活などで「もったいない」と感じるのはどんなときですか。（複数回答）**



n=1646（無回答者 6 名を除く）

食生活などで「もったいない」と感じるのはどんな時と尋ねたところ、回答者全体で「腐敗や期限切れなどで食べ物を捨てる時」が 73.4%と最も高く、次いで「食品廃棄に関する問題（恵方巻きの廃棄等）のニュースを見たとき」が 60.0%となった。

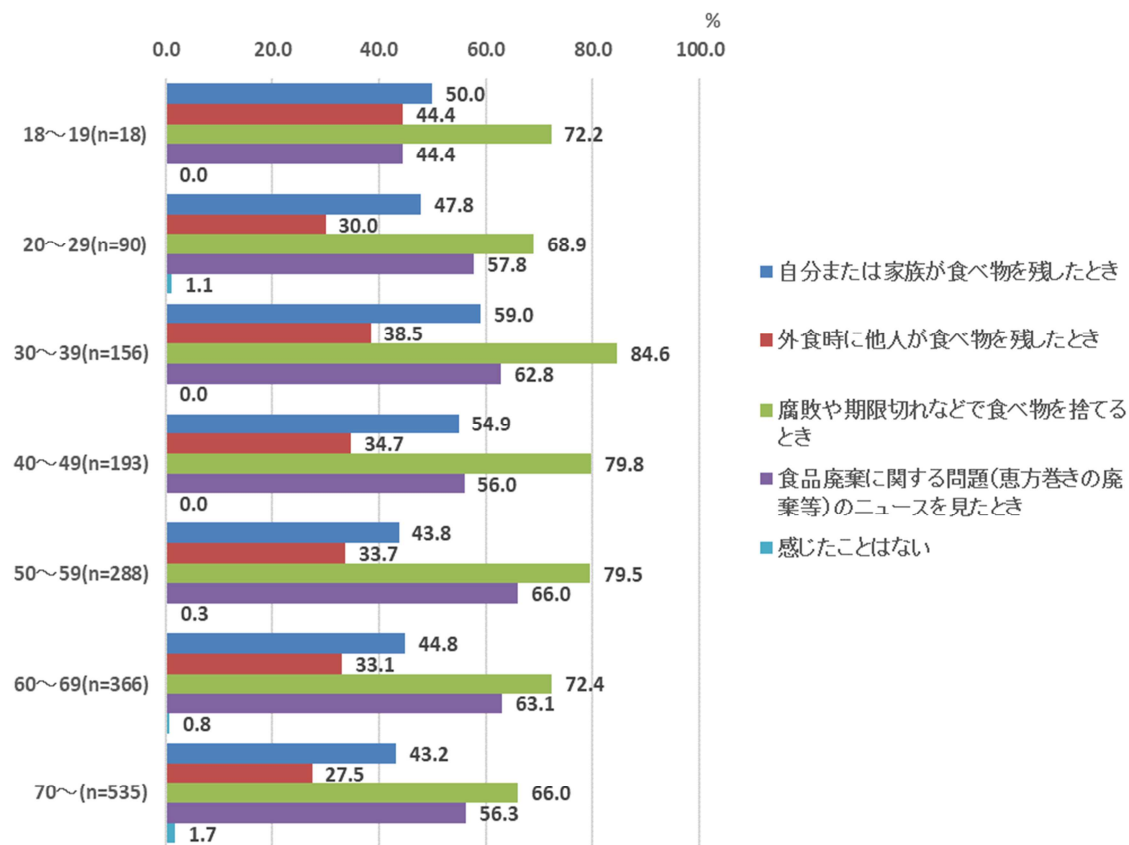
**問２－３ × 性別**



「腐敗や期限切れなどで食べ物を捨てる時」が、男性 68.5%、女性 77.3%となり、高い割合となった。次いで、「食品廃棄に関する問題（恵方巻きの廃棄等）のニュースを

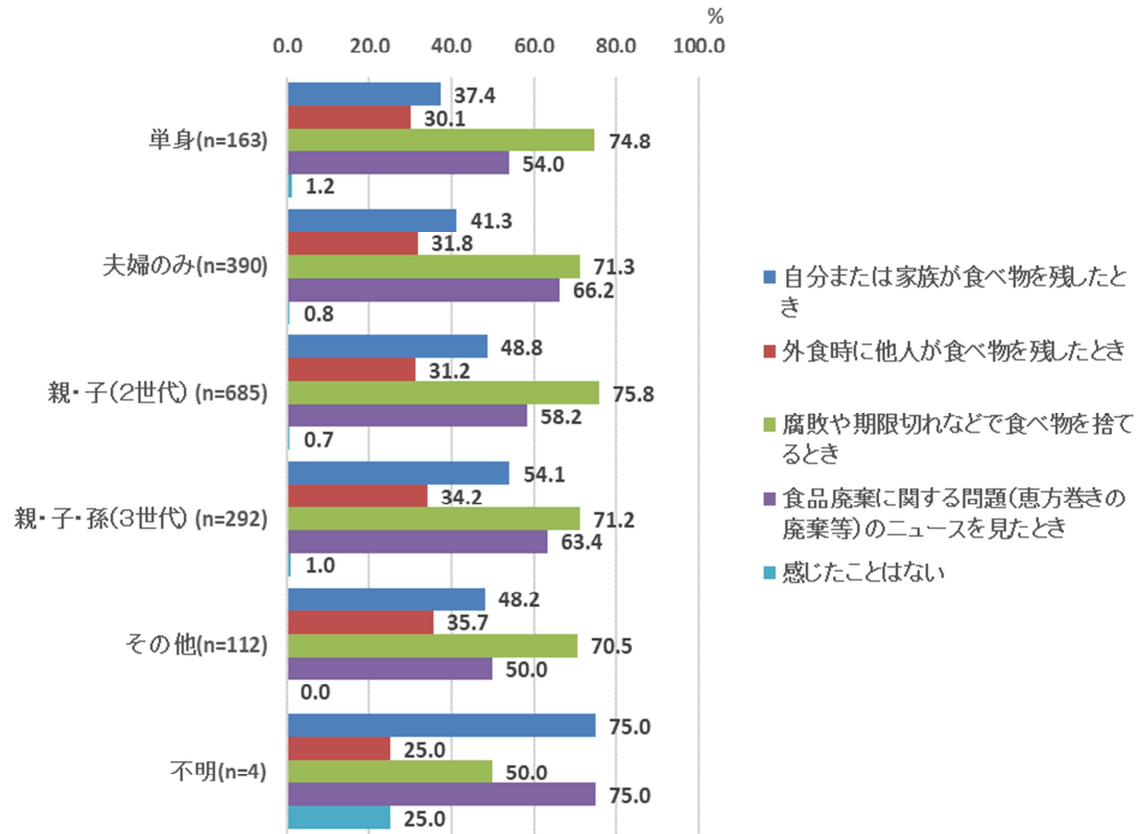
見たとき」が、男性 56.7%、女性 63.0%となった。

## 問 2－3 × 年齢別



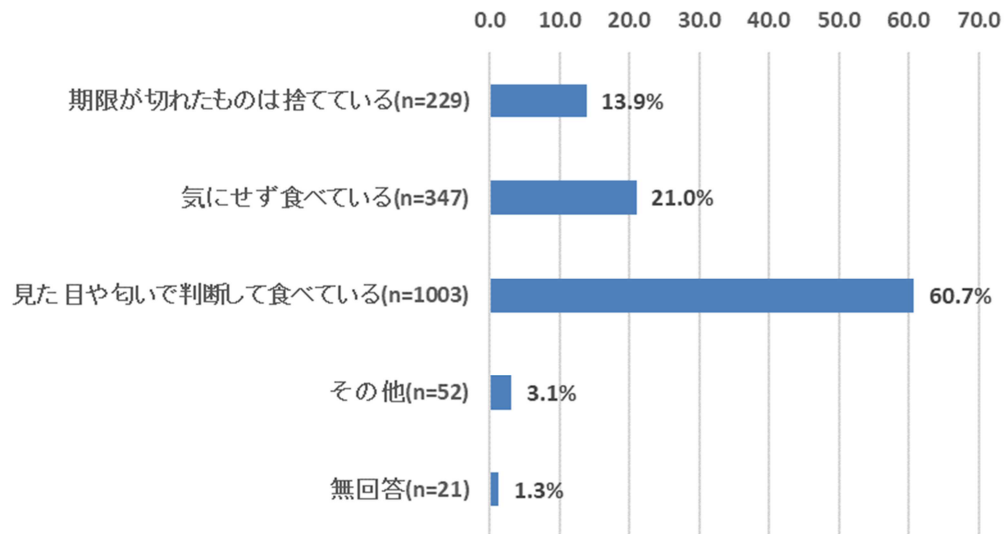
全年代にわたり、「腐敗や期限切れなどで食べ物を捨てるとき」が最も高く、6割を超える結果となった。次いで「食品廃棄に関する問題（恵方巻きの廃棄等）のニュースを見たとき」となった。

## 問 2 - 3 × 世帯別



世帯別をみると、「腐敗や期限切れなどで食べ物を捨てる時」が最も高く、不明の世代を除き、7割を超える結果となった。次いで「食品廃棄に関する問題（恵方巻きの廃棄等）のニュースを見たとき」となり、5割を超えた。

#### 問 2－4 あなたは、賞味期限が過ぎた食品をどのようにしていますか。

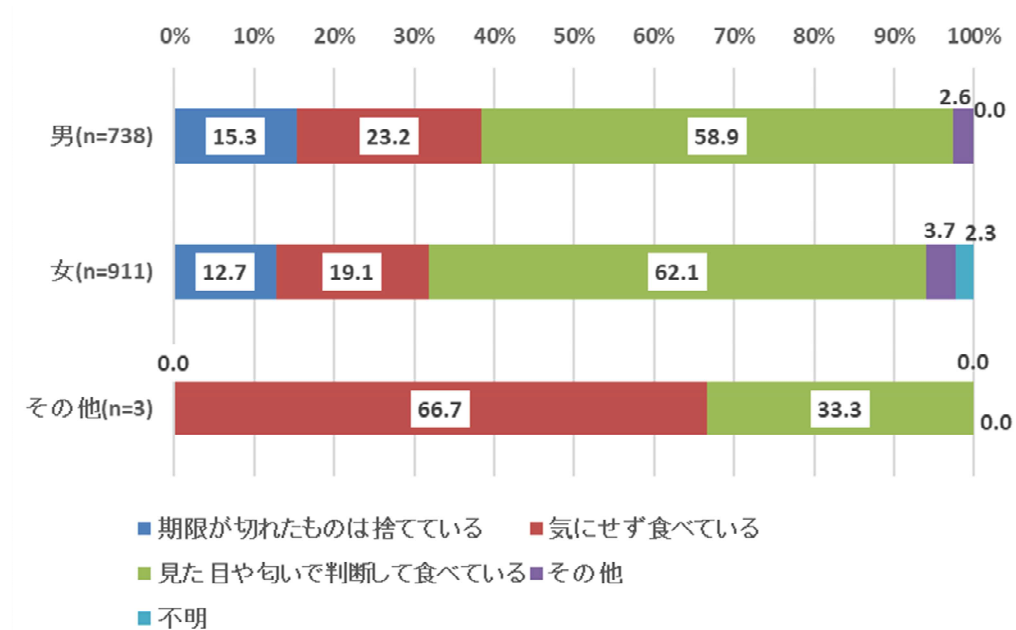


その他の回答

- ・期限内に消費する
- ・期限が1～2日程度であれば、大丈夫そうなら食べる
- ・2～3日過ぎまでは食べる
- ・賞味期限であれば翌日中に食べる
- ・期限から1、2週間の物は食べる。※ただし生物以外は平気である
- ・消費期限ぎりぎりの判断で食す
- ・1～2ヵ月程度なら食品によって食べています
- ・捨てる時のほうが多いが、ヨーグルト、納豆などは1～2日すぎても食べている
- ・消費期限は捨てる
- ・加熱等処理しなおしてなるべく捨てない
- ・必要に応じて買うこと、食べる量分作る
- ・食材によって決めている
- ・管理していない
- ・施設が管理されている
- ・少し気にして食べる
- ・食べれるか食べられないかの判断をする

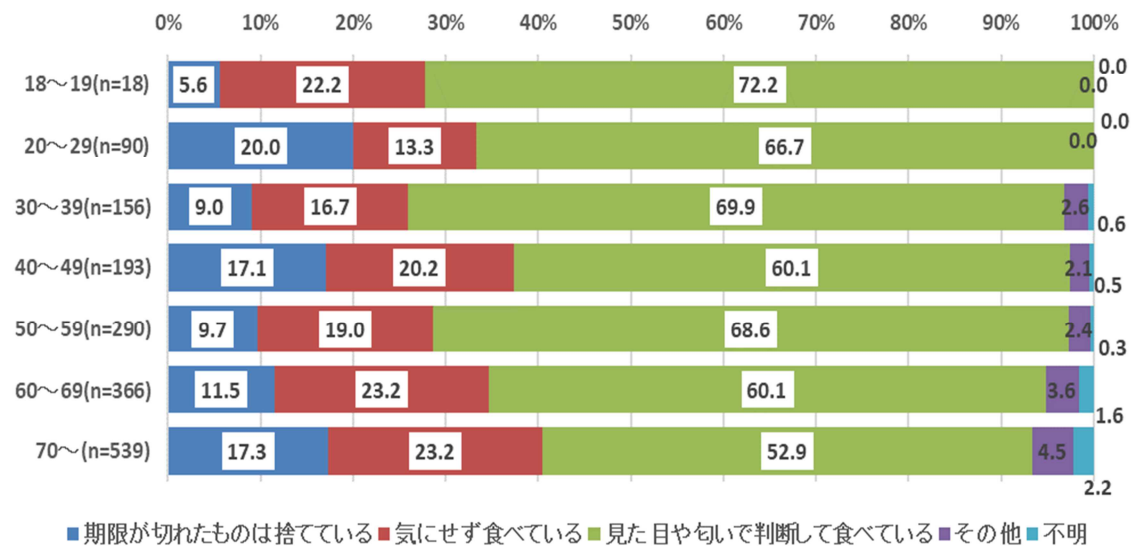
賞味期限を過ぎた食品をどのようにしているかを尋ねたところ、「見た目や匂いで判断して食べている」が全体の60.7%を占め、半数を超える結果となった。

## 問 2－4 × 性別



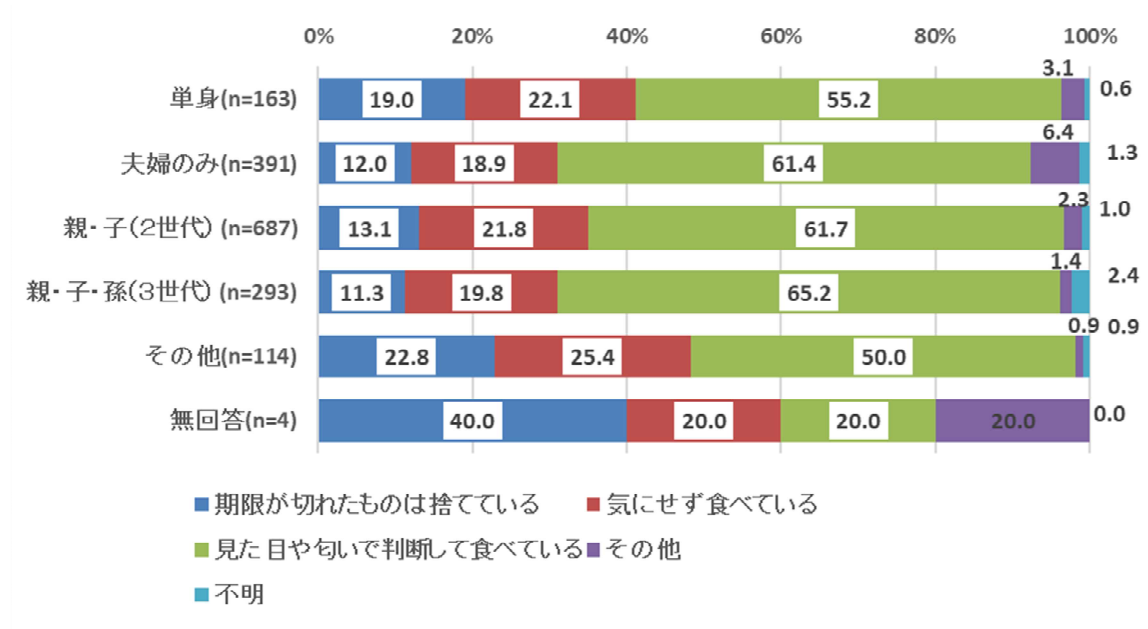
「見た目や匂いで判断して食べている」が男性 58.9%、女性 62.1%となり、男女ともに 5 割を超える結果となった。

## 問 2－4 × 年齢別



「見た目や匂いで判断して食べている」が 18～19 歳で 72.2%、30～39 歳で 69.9%に達するなど全世代で 5 割を超える結果となった。

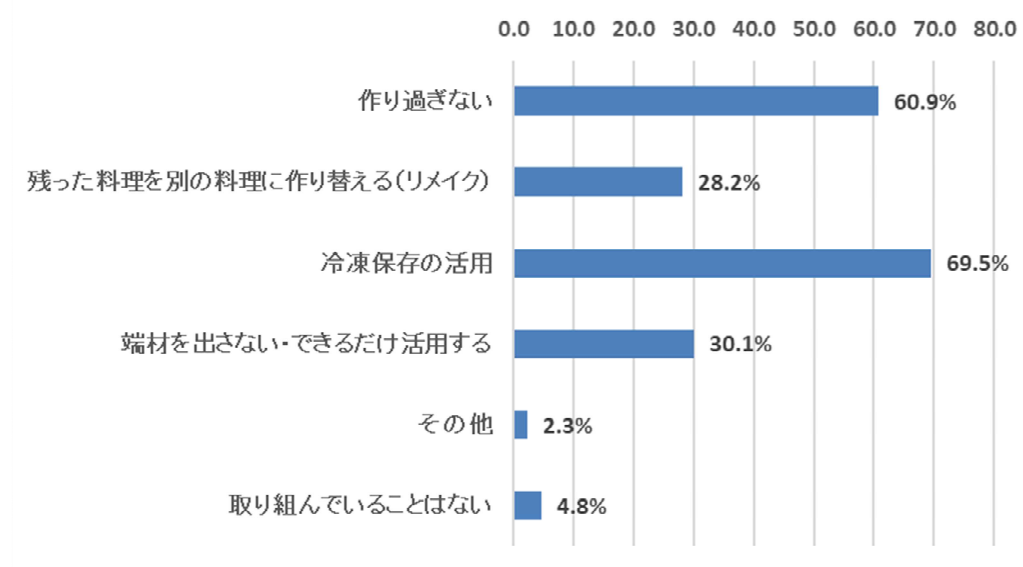
## 問2－4×世帯別



「見た目や匂いで判断して食べている」が、親・子・孫（3世代）で65.2%、親・子（2世代）で61.7%となるなど不明の世帯を除くすべてで5割を超える結果となった。

### (3) 家庭における食品ロスを削減する取組について

問3-1 あなたは、料理を作るときや料理を保存するとき、食品ロスを削減するために気をつけていることや工夫していることはありますか。(複数回答)



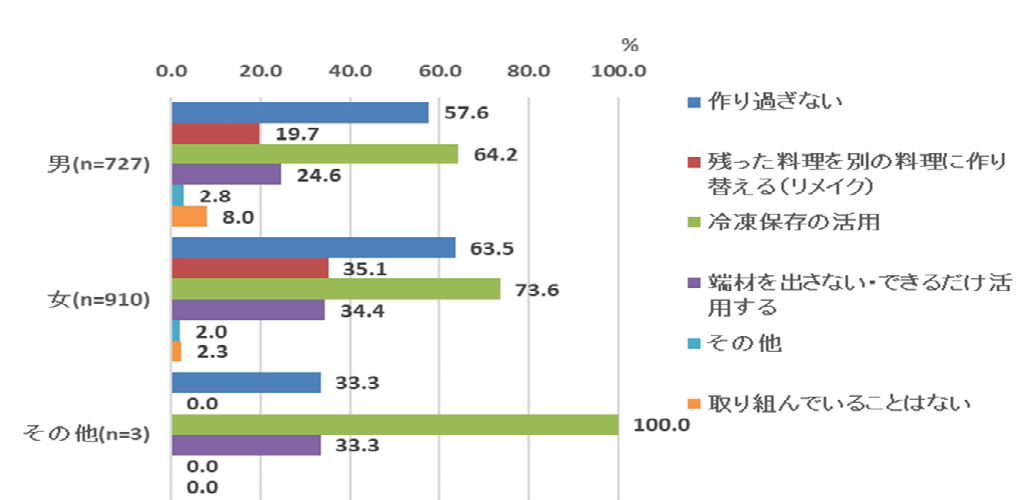
n=1640 (無回答者 12 名を除く)

その他回答

- ・自分で料理しない ・鮮度を保つよう保存する
- ・必要な物以外買わない、食べない物を使わない
- ・余ったら翌日利用やお弁当に使う ・使いきる ・ペットのえさ

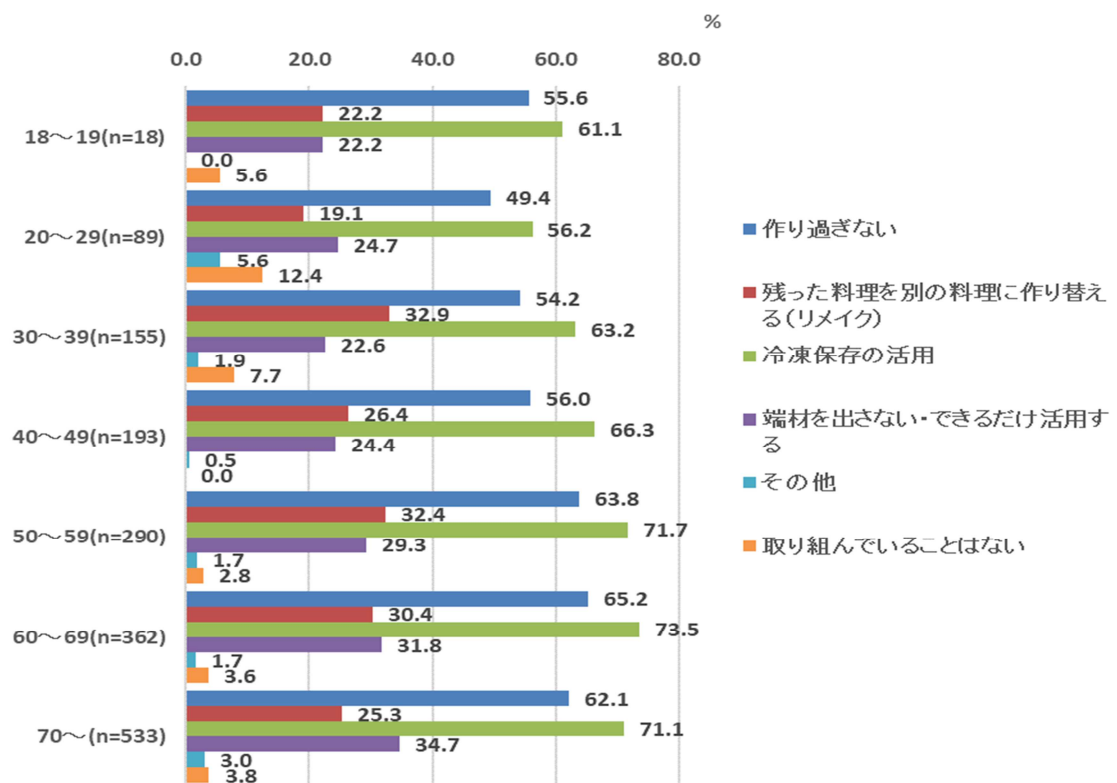
料理を作るときや料理を保存するとき、食品ロスを削減するために気をつけていることや工夫していることを尋ねたところ、「冷凍保存の活用」が 69.5%、次いで「作り過ぎない」が 60.9%となった。

### 問3-1×性別



性別でみると、すべてで「冷凍保存の利用」が最も高かった。「作り過ぎない」は次に高い結果となった。

### 問3-1×年齢別

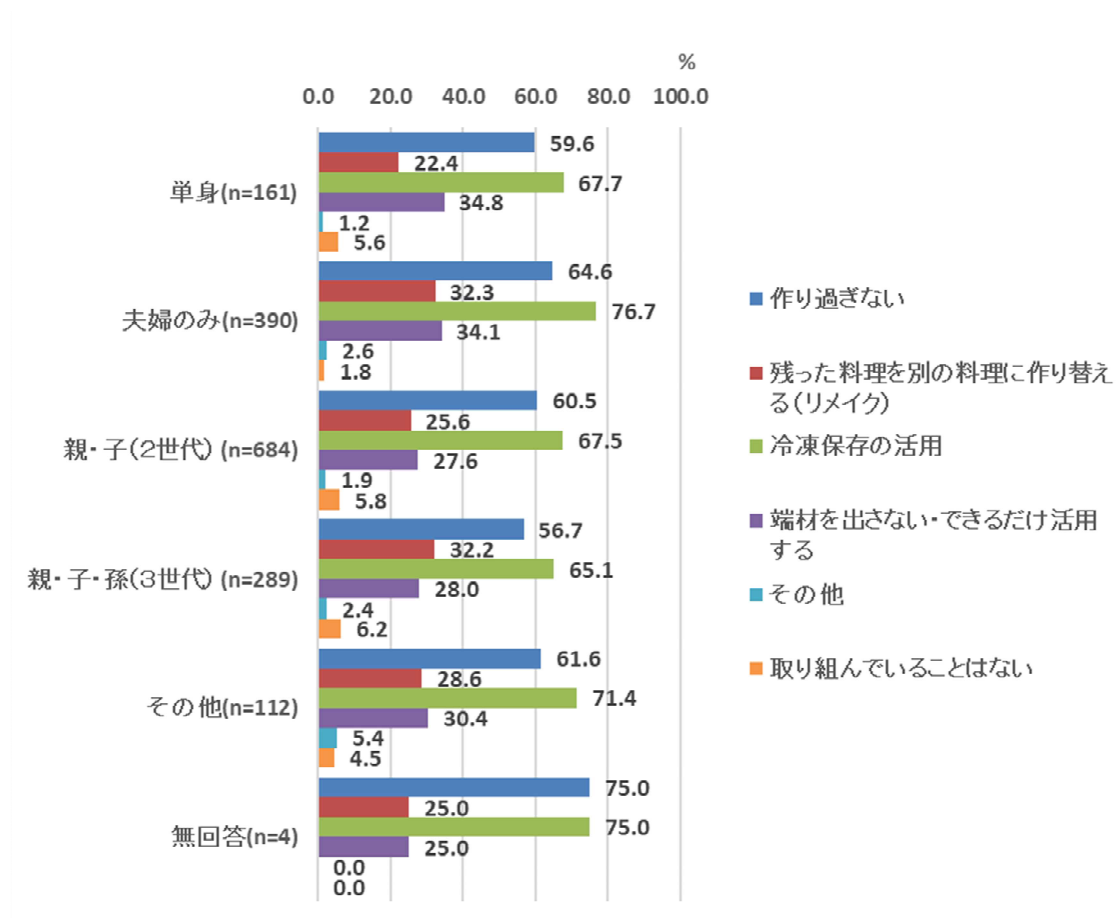


年齢別でみても、「冷凍保存の活用」が最も高く、次いで「作り過ぎない」が高い傾向



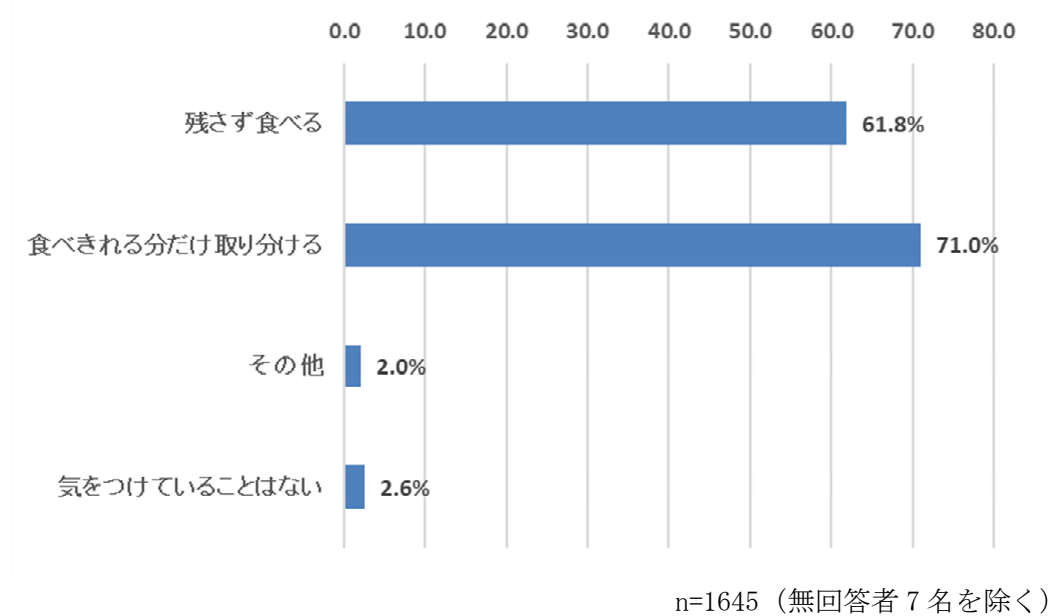
に変わりはありません、特に50歳以上の世代では7割を超える高い結果を示した。

### 問3-1×世帯別



世帯別でも、「冷凍保存の活用」が最も高くなった。特に、夫婦のみの世帯では76.7%に達した。「作り過ぎない」が次に続いた。

問3－2 あなたは、料理を食べるとき、食品ロスを削減するために気をつけていることはありますか（複数回答）

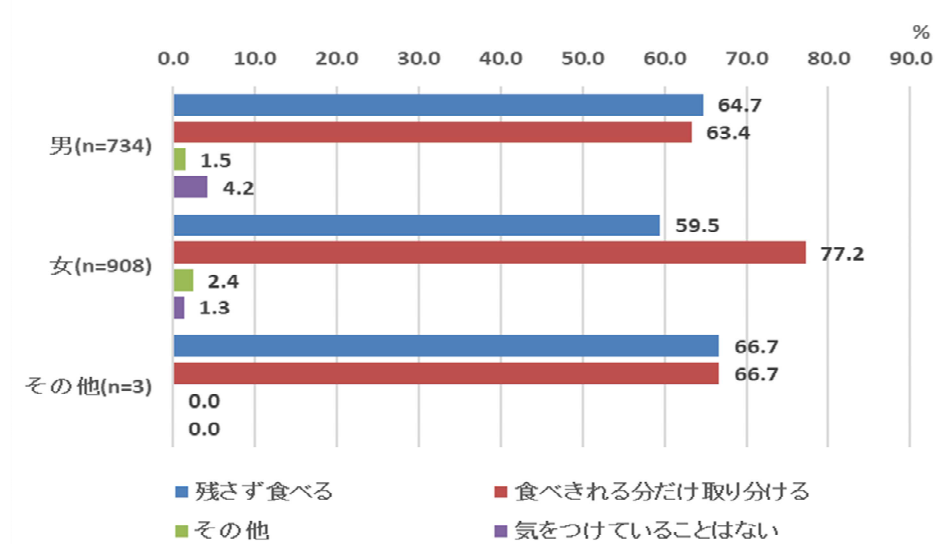


その他回答

- ・作り過ぎない ・残ったものは翌日消費する ・期限近い物は早めに食べきる
- ・必要以上には買わない注文しすぎない ・おいしく作る ・盛り付けを工夫する

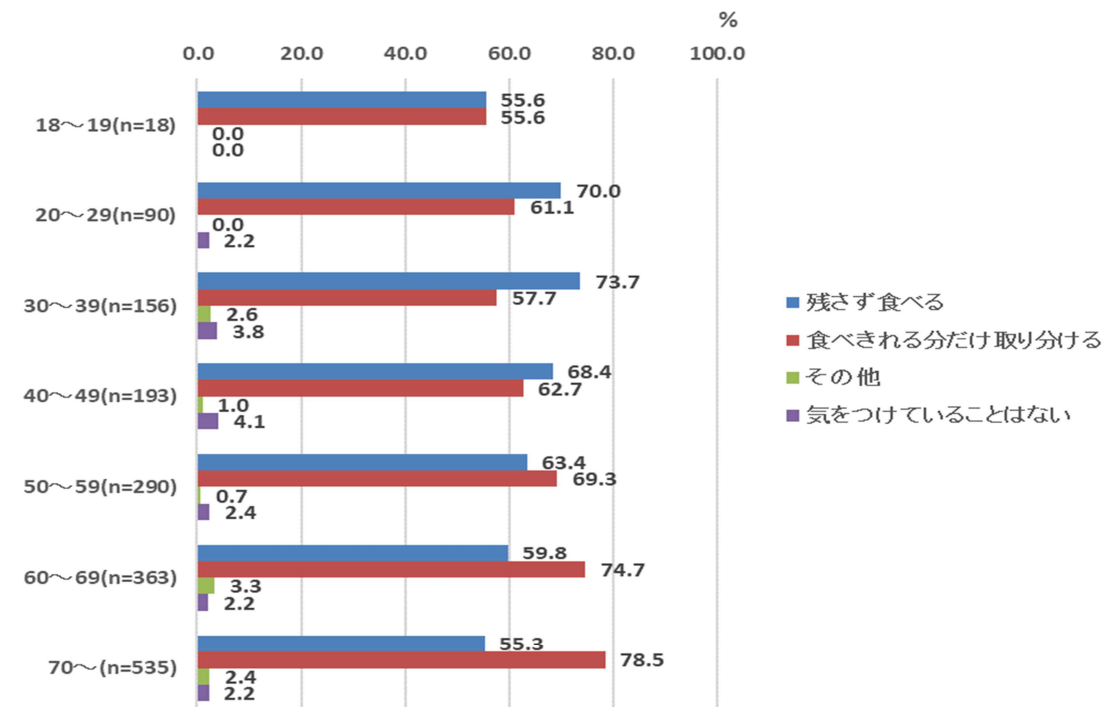
料理を食べるとき、食品ロスを削減するために気をつけていることを尋ねたところ「食べきれ的分だけ取り分ける」が71.0%、次いで「残さず食べる」が61.8%となった。

### 問3－2×性別



料理を食べるときに気をつけていることで、男性は「残さず食べる」が64.7%であったのに対し、女性は「食べきれ的分だけ取り分ける」が77.2%と最も高かった。

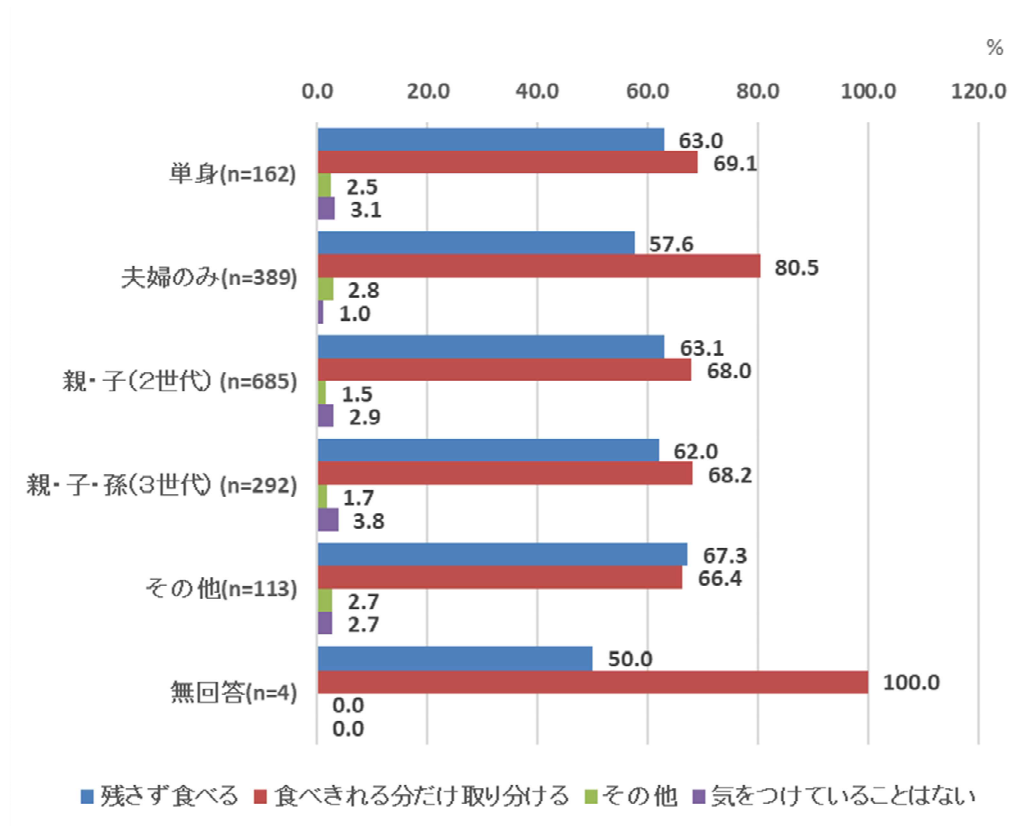
### 問3－2×年齢別



料理を食べるときに気をつけていることで、50歳以上の世代は「食べきれ的分だけ取

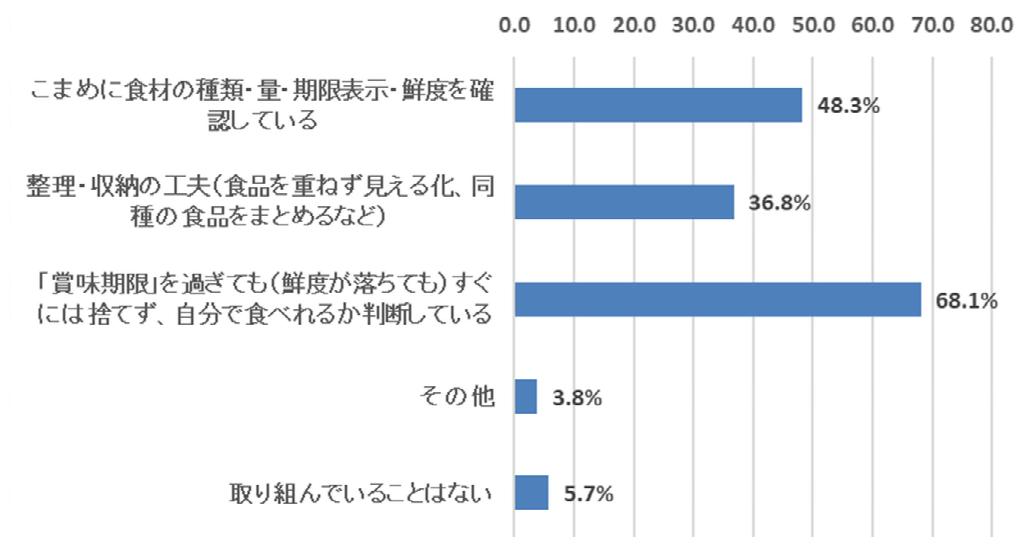
り分ける」が最も高いのに対し、49 歳以下の世代は「残さず食べる」が最も高い。

### 問 3－2 × 世帯別



料理を食べるときに気をつけていることで、その他の世帯以外で、「食べきれ的分だけ取り分ける」が最も高く、夫婦のみでは 80.5% に達した。

**問３－３ あなたは、食品ロスを削減するために冷蔵庫内の食品の管理で気をつけていることはありますか。（複数回答）**



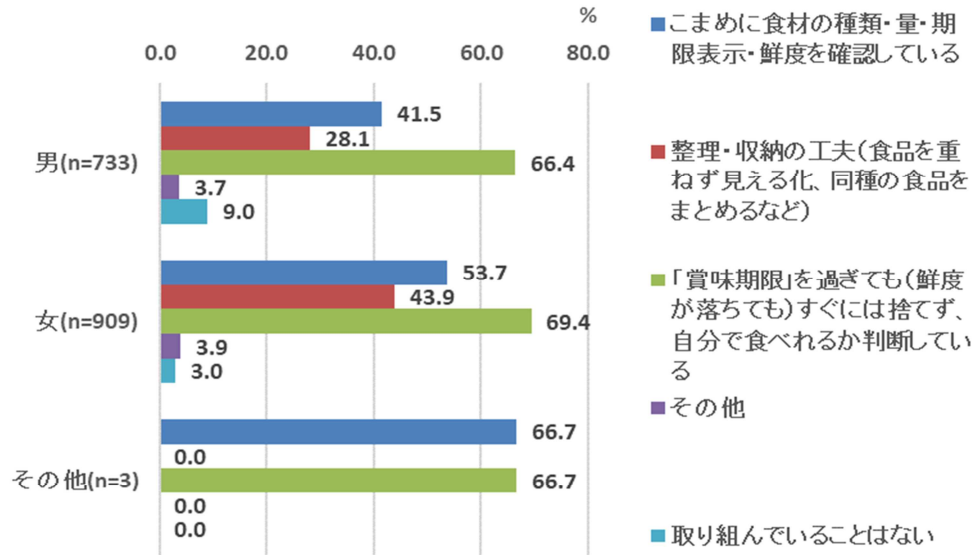
n=1645（無回答者 7 名を除く）

その他

- ・多く買わない、買いすぎない
- ・冷蔵庫が空になるまで買い物しない
- ・こまめに買い物に行く
- ・週の献立を決めて買い物をする
- ・ホワイトボードに記入し管理している
- ・冷蔵庫の上段は手前のみ利用
- ・小分けして冷凍する
- ・料理をしない

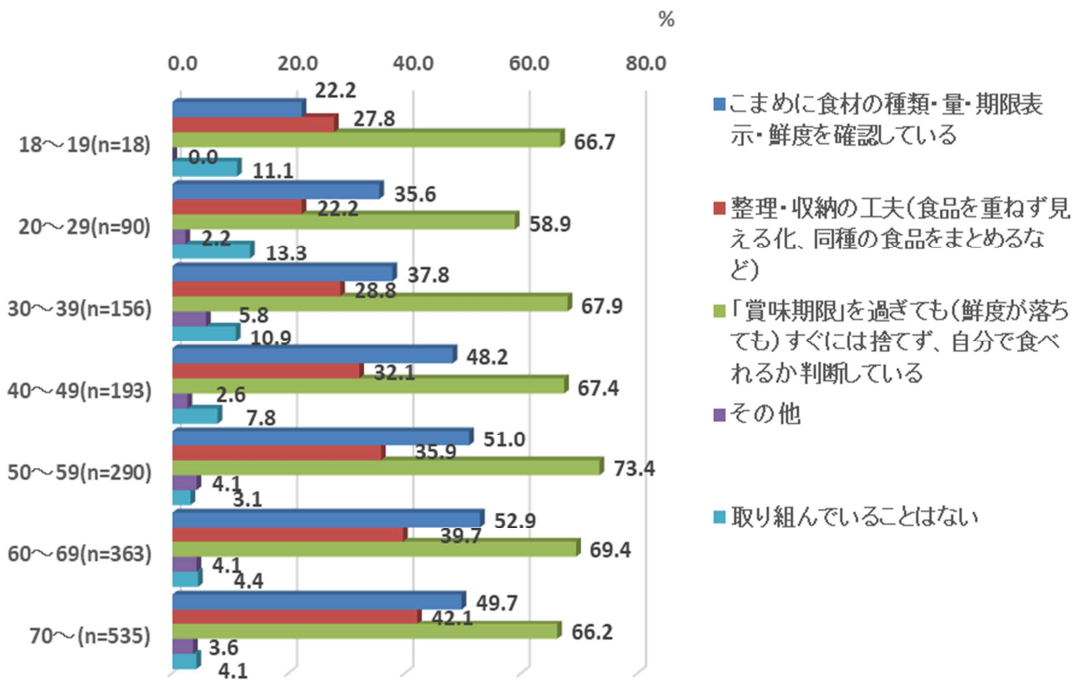
食品ロスを削減するために冷蔵庫内の食品の管理で気をつけていることを尋ねたところ、「賞味期限を過ぎても（鮮度が落ちてても）すぐには捨てず、自分で食べられるか判断して」が 68.1%と最も高くなった。

### 問3-3×性別



冷蔵庫内の食品管理を性別でみると、「賞味期限を過ぎても（鮮度が落ちてても）すぐには捨てず、自分で食べられるか判断している」が最も高く、6割を超えた。

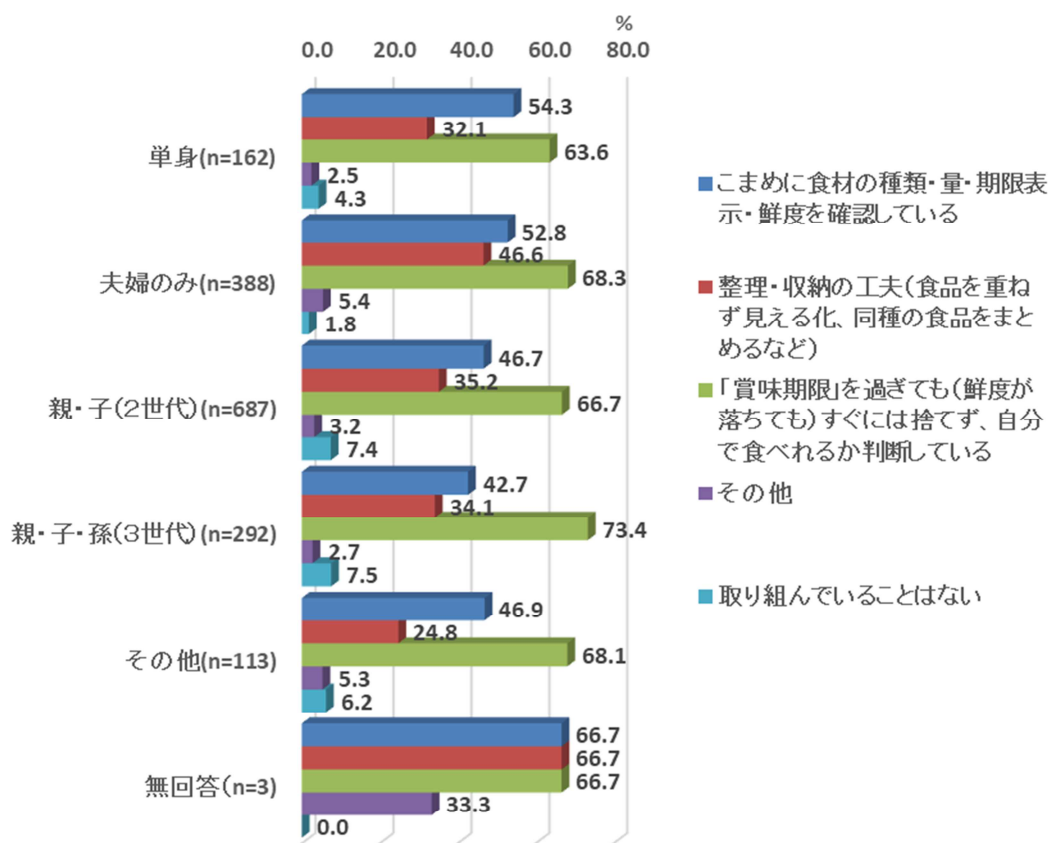
### 問3-3×年齢別



冷蔵庫内の食品管理を年齢でみると、全年代において「賞味期限を過ぎても（鮮度が落

ちても) すぐには捨てず、自分で食べられるか判断している」が最も高い結果となった。

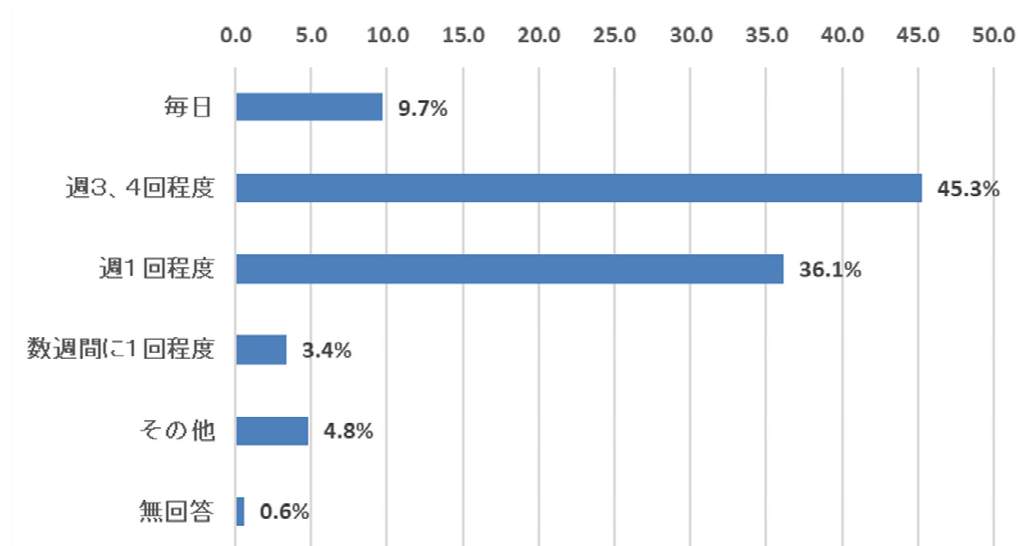
### 問3-3×世帯別



冷蔵庫内の食品管理を世帯でみると、すべての世帯で「賞味期限を過ぎても(鮮度が落ちても) すぐには捨てず、自分で食べられるか判断している」が最も高い結果となった。

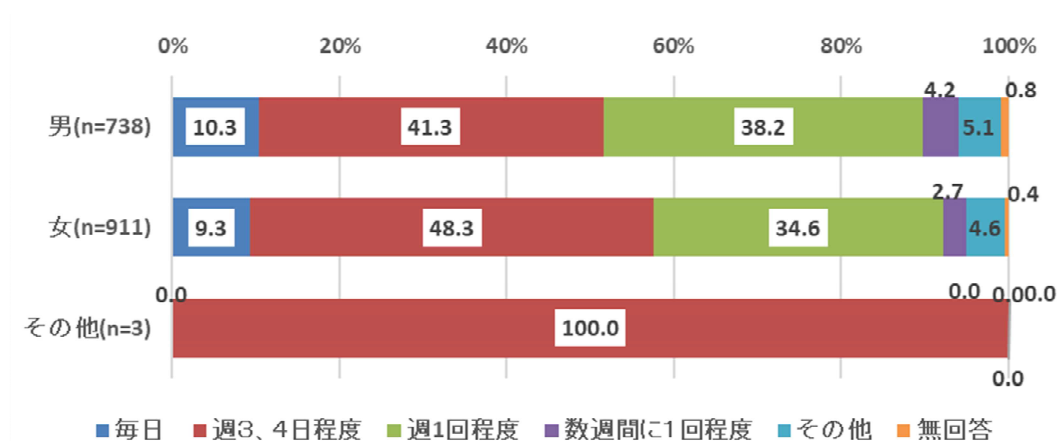
#### (4) 買い物をするときの食品ロスを削減する取組について

問４－１ あなたの買い物の頻度は、次のどれにあたりますか。



買い物の頻度を尋ねたところ、「週3、4回程度」が45.3%と最も高く、「週1回程度」が36.1%と続いた。

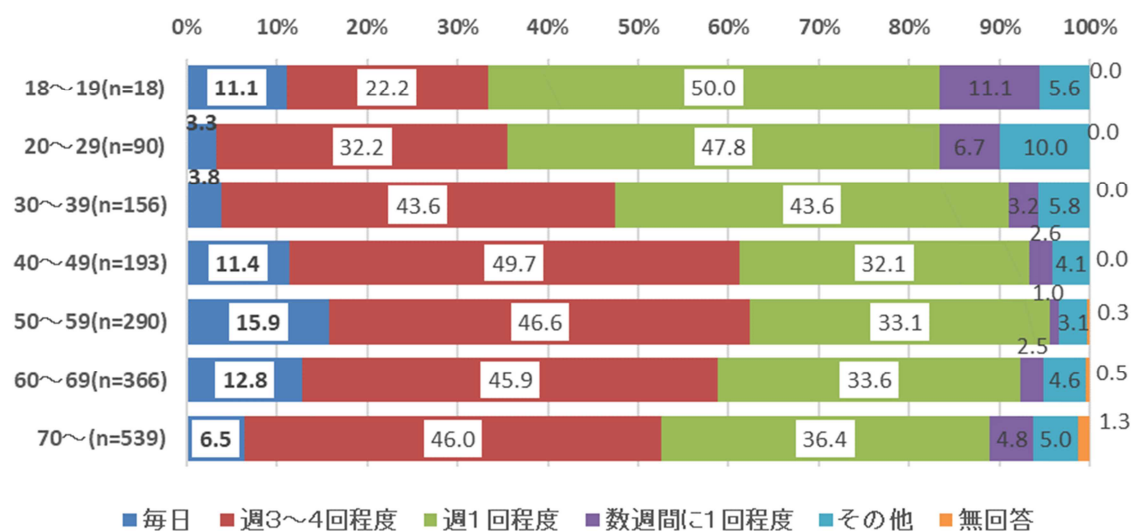
#### 問４－１×性別



買い物の頻度を性別で見ると、すべてで「週3、4日程度」が最も高く、「週1回程度」を合わせると、約8割に達する結果となった。

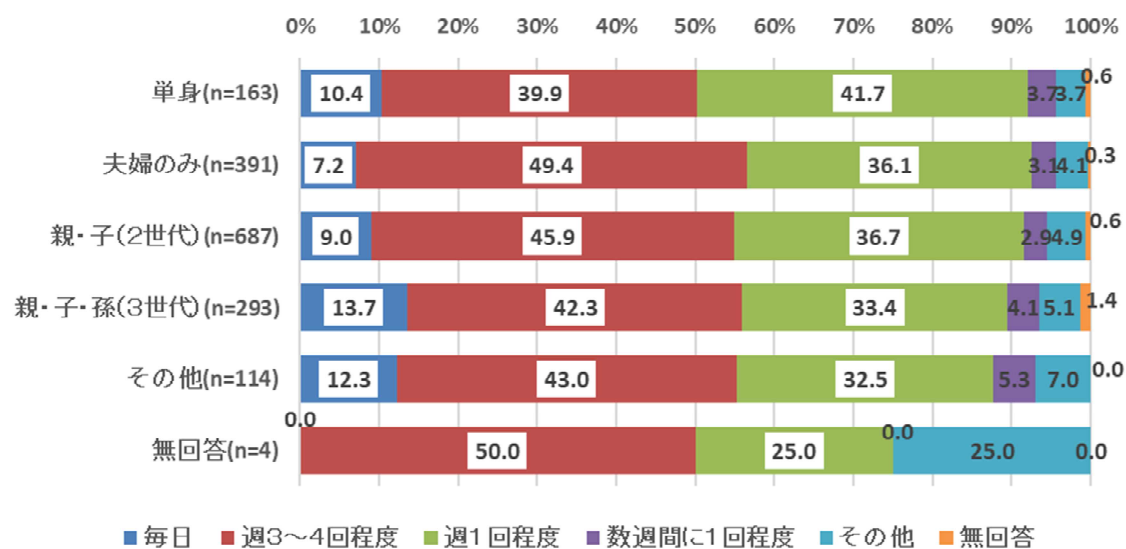


#### 問4-1×年齢別



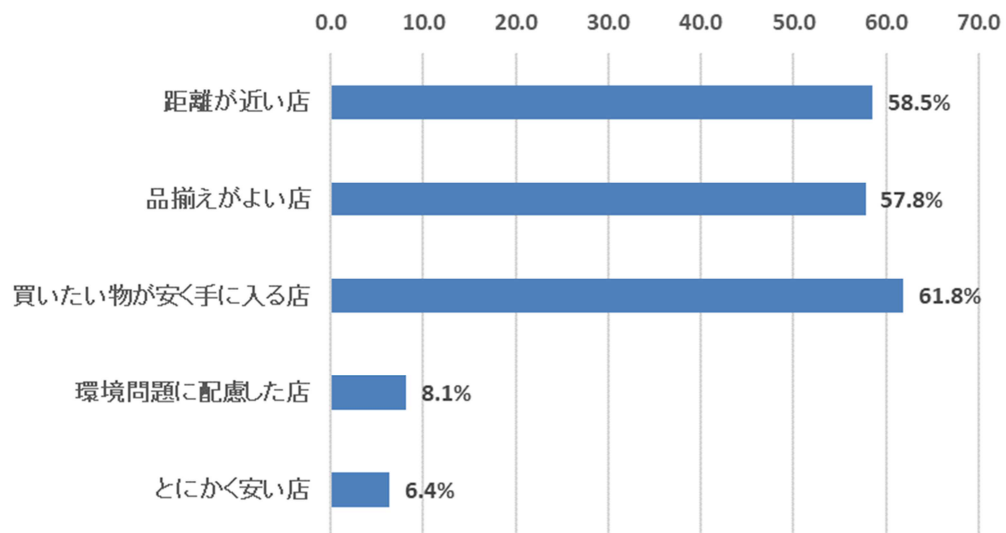
買い物の頻度を年齢で見ると、30歳未満は「週1回程度」が最も高い。40歳以上では「毎日」と「週3～4回程度」を合わせた割合が5割を超える結果となった。

#### 問4-1×世帯別



買い物の頻度を世帯別で見ると、単身を除く世帯で「週3～4回程度」が最も高くなった。また、「週3～4回程度」と「週1回程度」を合わせた割合で見ると、単身、夫婦のみ、親・子（2世代）で8割を超えた。

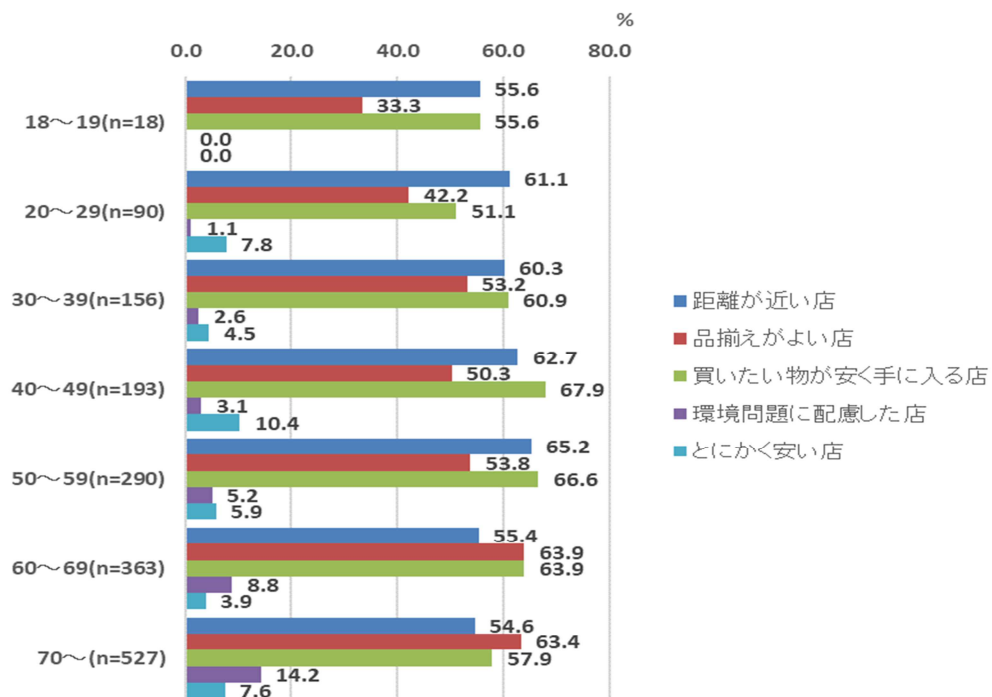
問４－２ あなたは、買い物をするとき、どのようなお店を選びますか（複数回答）



n=1637（無回答者 15 名を除く）

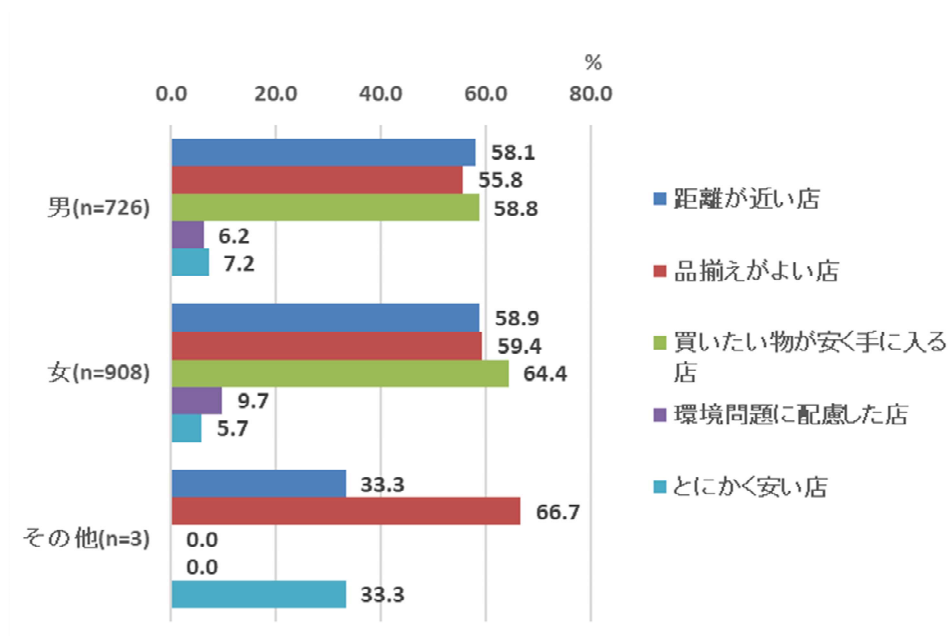
買い物をするとき、どのようなお店を選ぶかを尋ねたところ、「買いたい物が安く手に入る店」が 61.8%、「距離が近い店」が 58.5%と続いた。

問４－２×年齢



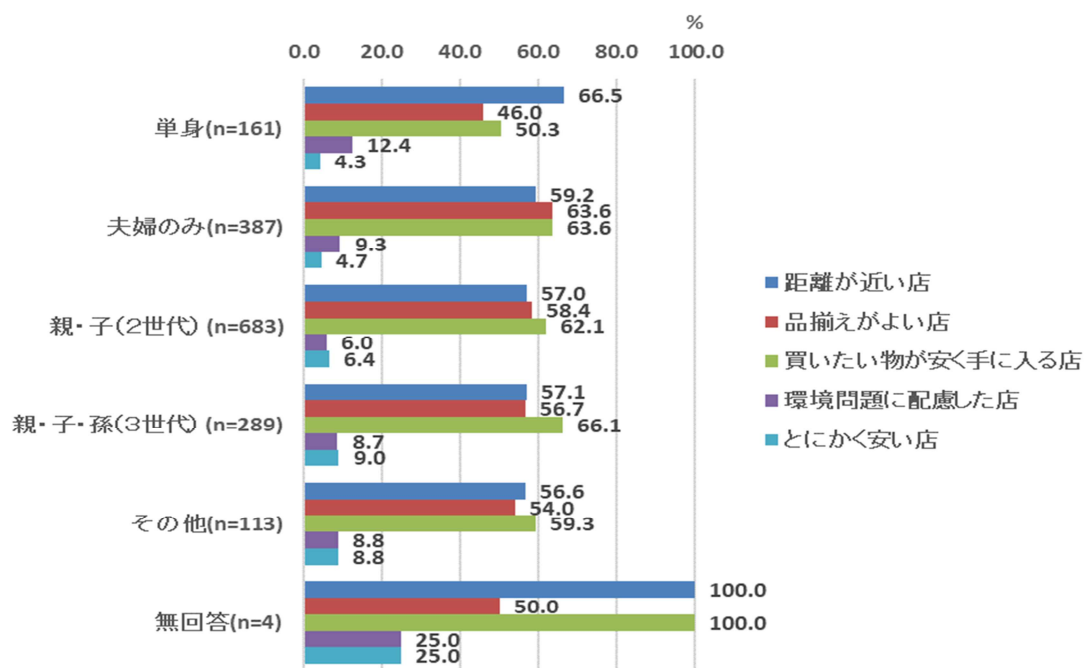
どのようなお店を選ぶかを年齢別でみると、60歳以上は「品揃えがよい店」が最も高くなったが、30～59歳までは「買いたい物が安く手に入る店」が最も高い。

#### 問4-2×性別



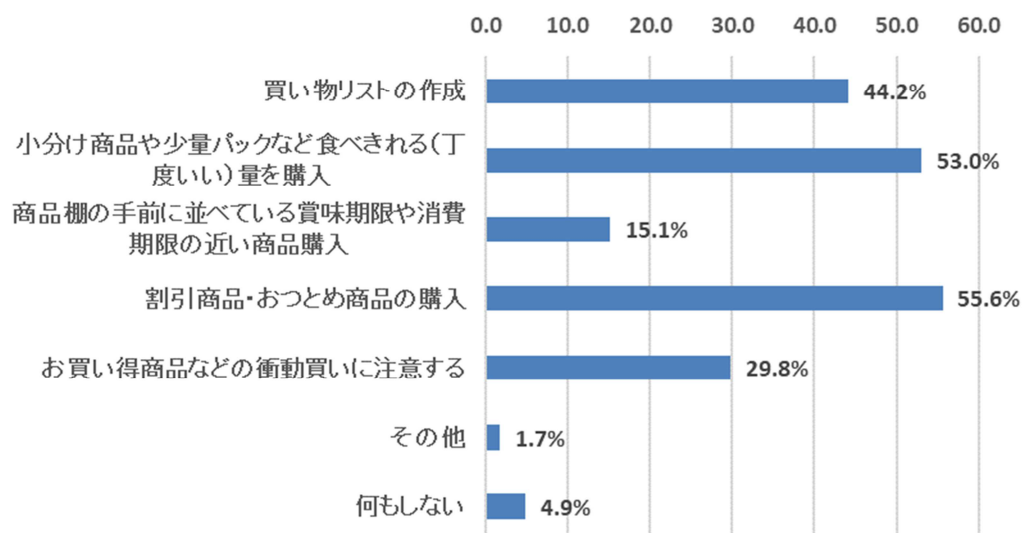
買い物をするとき、どのようなお店を選ぶかを性別でみると、男女ともに「買いたい物が安く手に入る店」が最も高い結果となった。

#### 問4-2×世帯別



どのようなお店を選ぶかを世帯別でみると、単身では「距離が近い店」、親・子・孫（3世代）では「買いたい物が安く手に入る店」が65%を超える結果となった。

**問4－3 あなたは、買い物をするとき、食品ロスを削減するために心がけていることや行っていることはありますか（複数回答）**



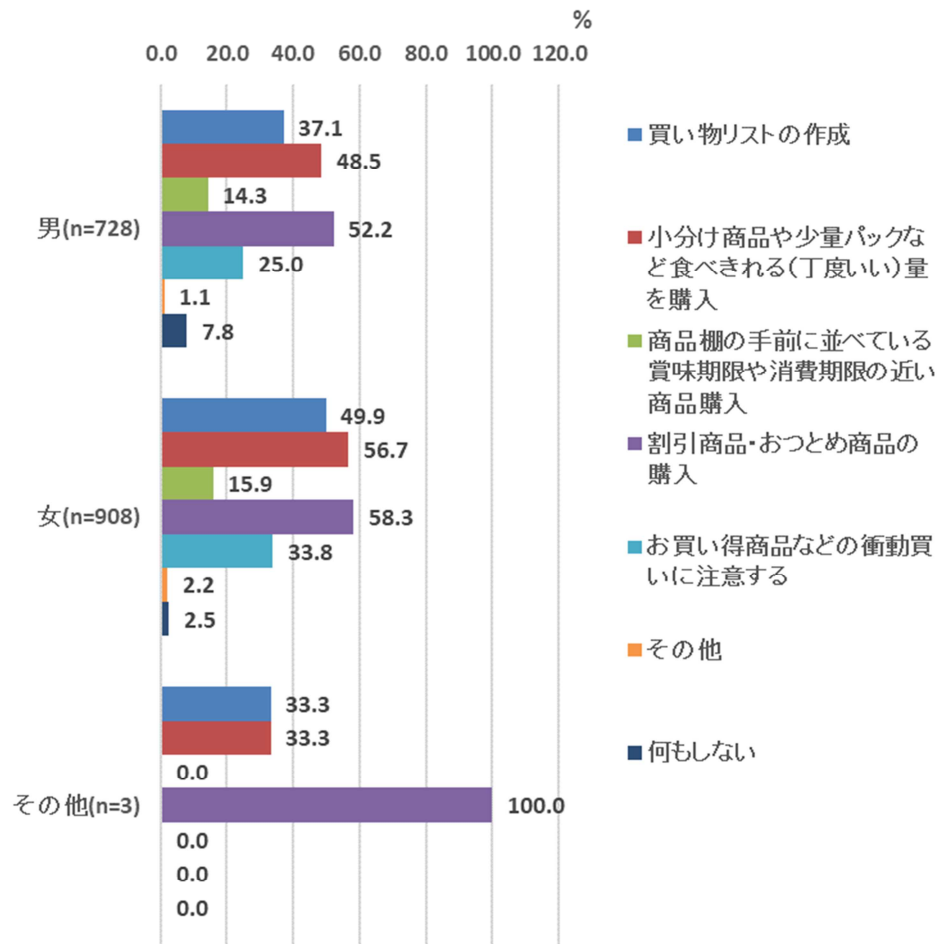
n=1639（無回答者 13 名を除く）

その他回答

- ・日持ちする物、状態の良いものを選ぶ
- ・必要ない物は買わない
- ・買い物に行かない
- ・当日食べる分を買う
- ・家族が好きな食材などを買う
- ・使いまわしのきく定番の物を買う

買い物をするとき、食品ロスを削減するために心がけていることや行っていることで、最も高かったのは「割引商品・おつとめ商品の購入」が55.6%となった。

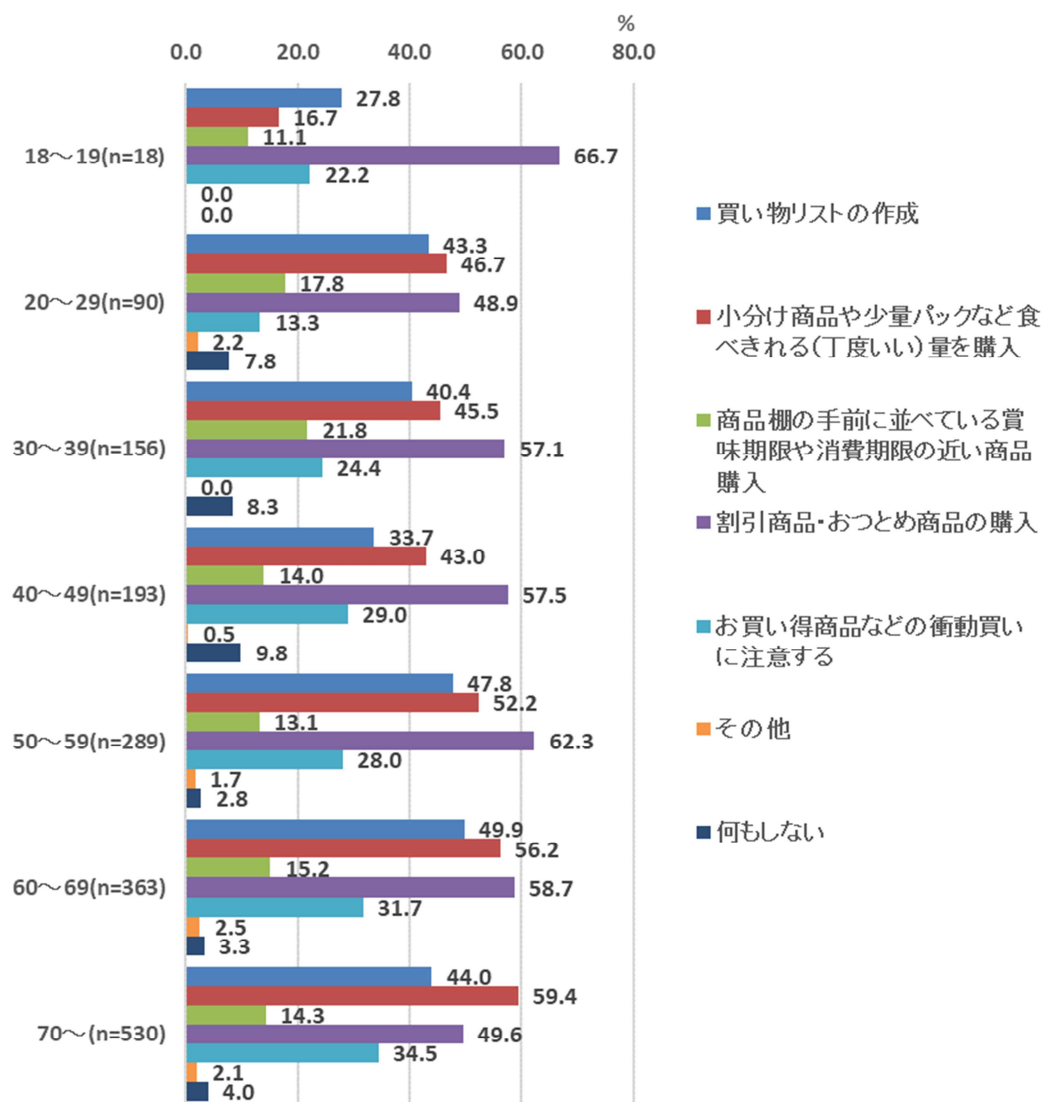
#### 問4－3×性別



買い物時に心がけていることを性別でみると、「割引商品・おつとめ商品の購入」が女性では58.3%、男性では52.2%、その他では100.0%となり、すべてにおいて最も高かった。

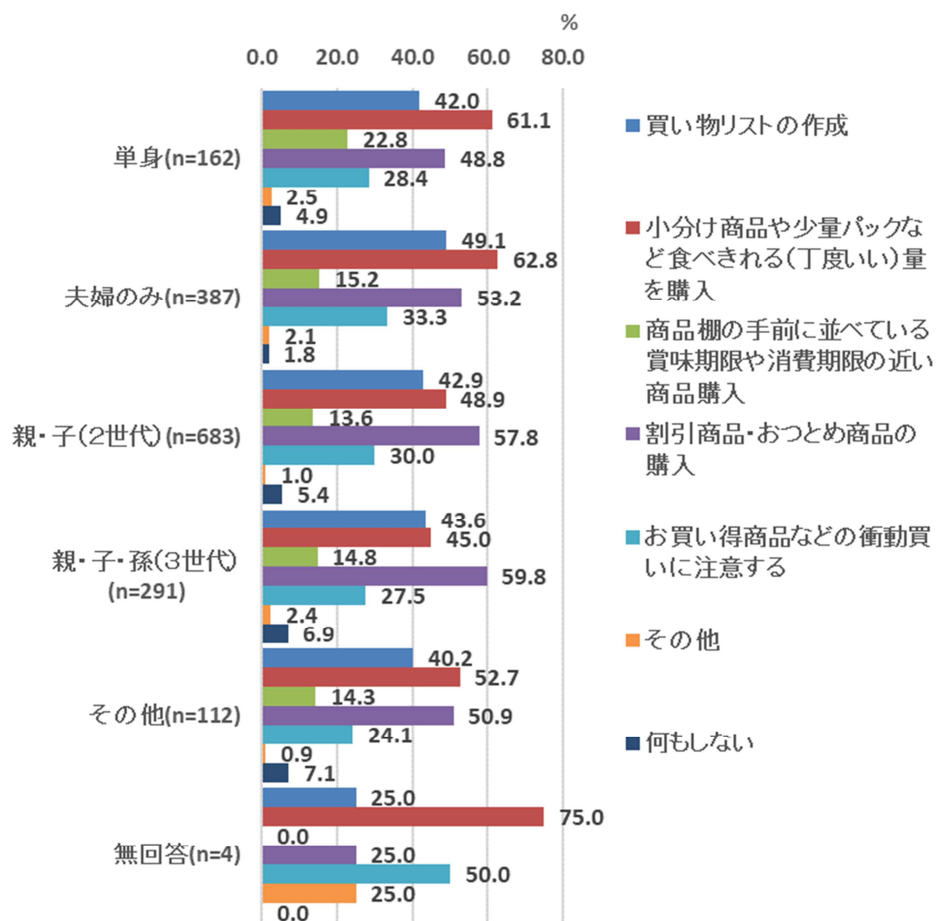
また、女性では、「小分け商品や少量パックなど食べきれる（丁度いい）量を購入」が56.7%と他と比較し、高くなった。

#### 問4－3×年齢別



買い物時に心がけていることを年齢でみると、70歳以上を除く全世代で「割引商品・おつとめ商品の購入」が最も高かった。特に、18～19歳では66.7%に達し、突出した傾向を示した。50歳以上の世代では、「小分け商品や少量パックなど食べきれない（丁度いい）量を購入」が5割を超え、他の世代と比較すると、高い傾向がみられた。

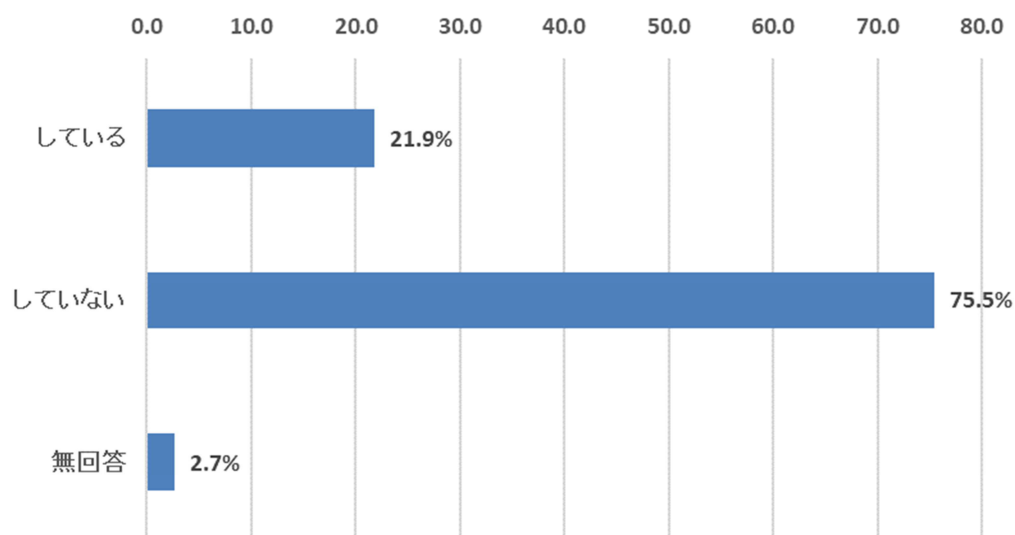
#### 問4－3×世帯別



買い物時に心がけていることを世帯で見ると、単身、夫婦のみを除く世帯で「割引商品・おつとめ商品の購入」が最も高くなった。単身、夫婦のみの世帯では、「小分け商品や少量パックなど食べきれる（丁度いい）量を購入」が6割を超え、他の世帯より強い傾向が出た。

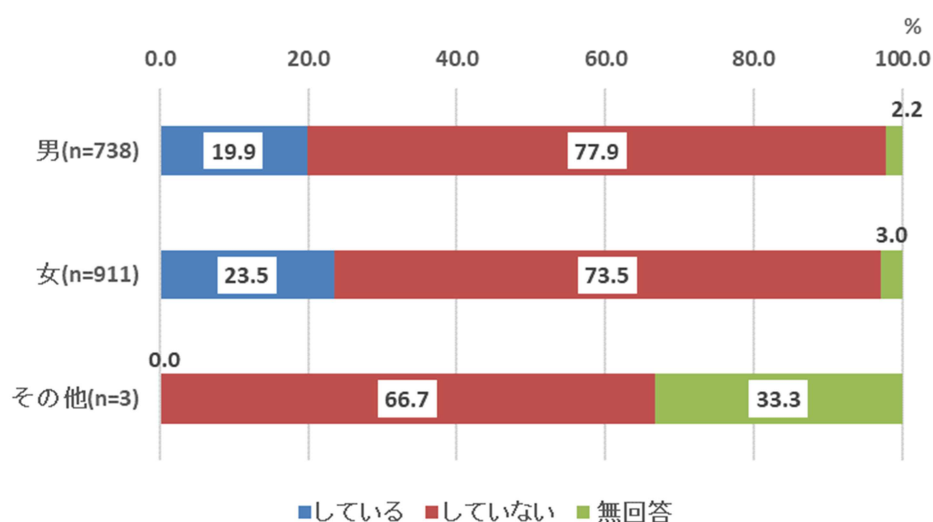
## （５）外食するときの食品ロスを削減する取組について

問５－１ あなたは、お店を選ぶときに食品ロスを削減する取組を行っていることを選択基準の１つとしていますか。



お店を選ぶときに食品ロスを削減する取組を行っていることを選択基準にしていると回答した割合は 21.9%にとどまり、「していない」が 75.5%を占める結果となった。

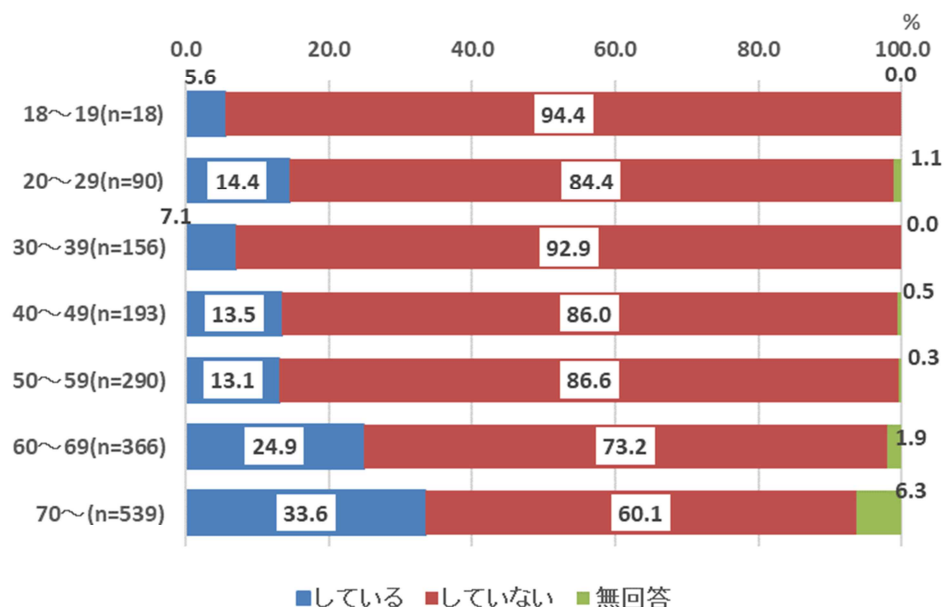
### 問５－１ × 性別



お店を選ぶときに食品ロスを削減する取組を行っていることを選択基準にしていると回答した割合は女性が 23.5%に対し、男性が 19.9%となった。

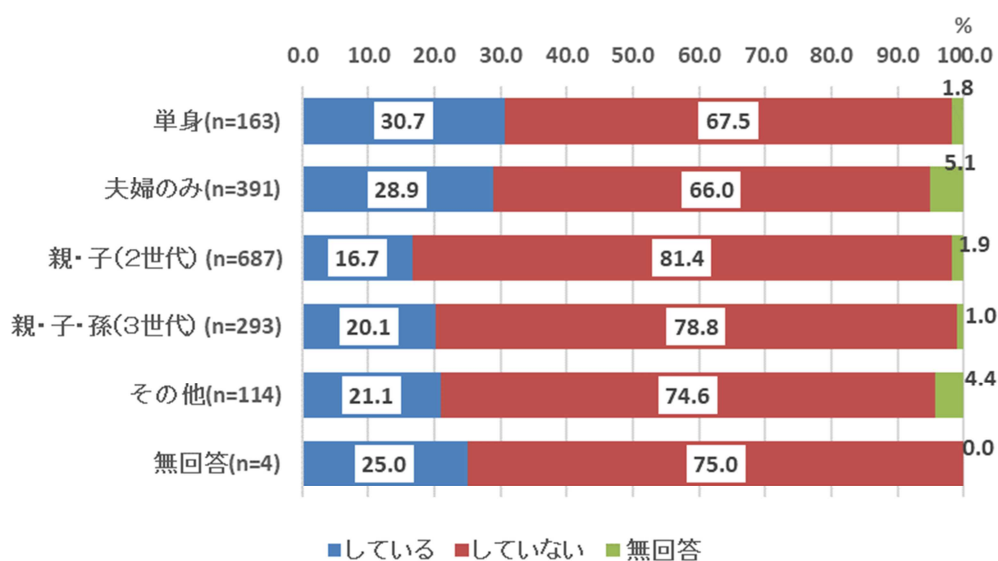


### 問5－1×年齢別



お店を選ぶときに食品ロスを削減する取組を行っていることを選択基準にしていると回答した割合は、70歳以上で33.6%、60～69歳で24.9%と高齢者層で高い傾向が出た。

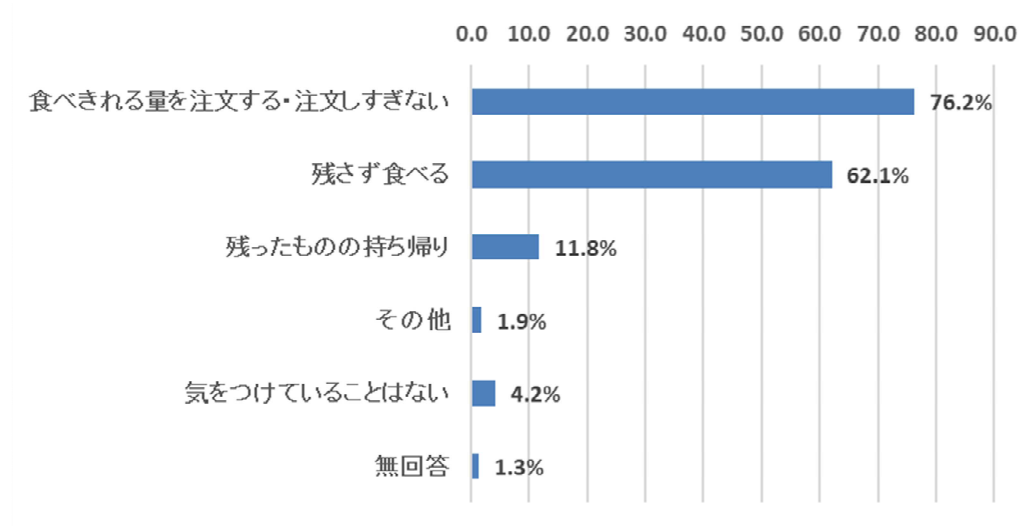
### 問5－1×世帯別



お店を選ぶときに食品ロスを削減する取組を行っていることを選択基準にしている

と回答した割合は、単身で 30.7%、夫婦のみで 28.9%となり、人数の少ない世帯で高い傾向が見られた。

## 問5－2 あなたは、外食をするときに食品ロスを削減するために気をつけていることはありますか（複数回答）



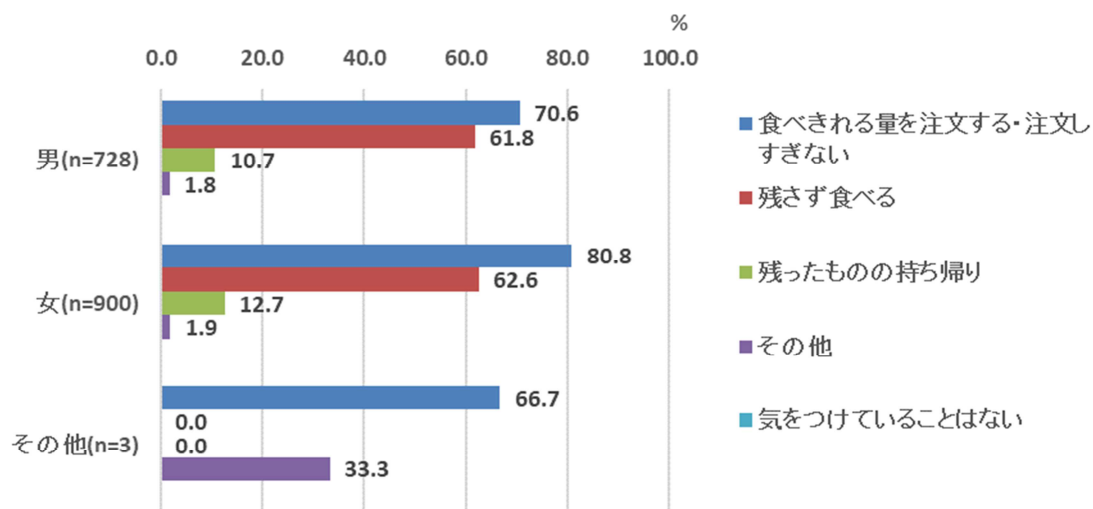
n=1631（無回答者 21 名を除く）

その他回答

・外食しない ・食べたいものだけ注文 ・お持ち帰りできる店では持ち帰る

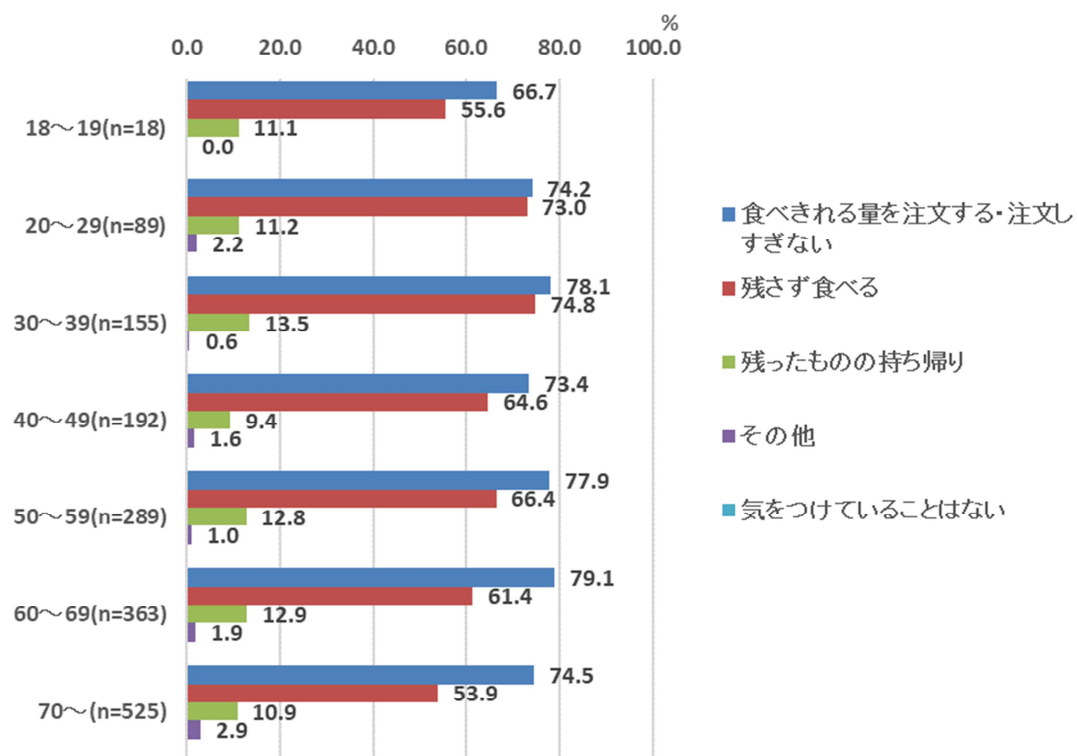
外食するときに食品ロスを削減するために気をつけていることを尋ねたところ、「食べきれる量を注文する・注文しすぎない」が 76.2%、「残さず食べる」が 62.1%となり、この 2 項目が多数を占める結果となった。

## 問5－2 × 性別



外食時気をつけていることを性別でみると、すべてで「食べきれる量を注文する・注文しすぎない」が高い結果となった。

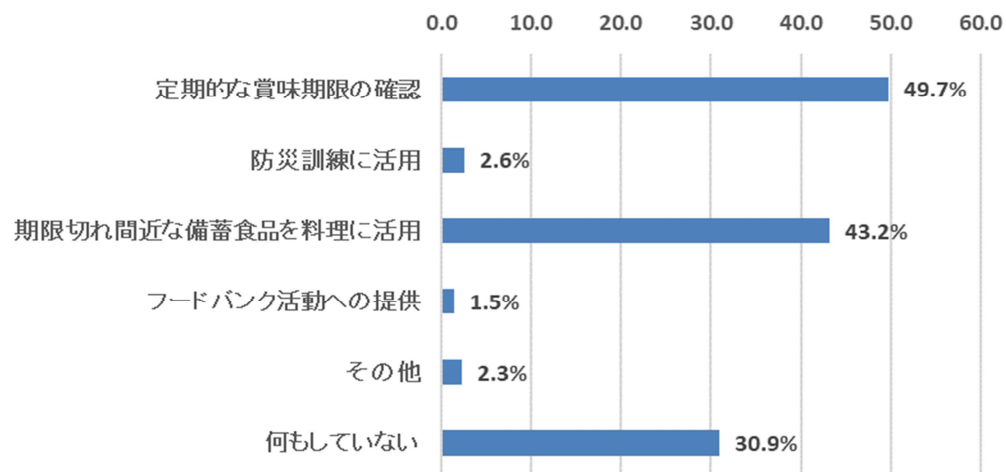
#### 問5－2×年齢別



外食時気をつけていることを年齢でみると、すべての世代で「食べきれる量を注文する・注文しすぎない」が高い結果となった。

## （６）災害に備えた備蓄食品の廃棄を防ぐ取組について

問６－１ あなたは、長期間にわたって保管している備蓄食品を無駄にしないために行っていることはありますか（複数回答）



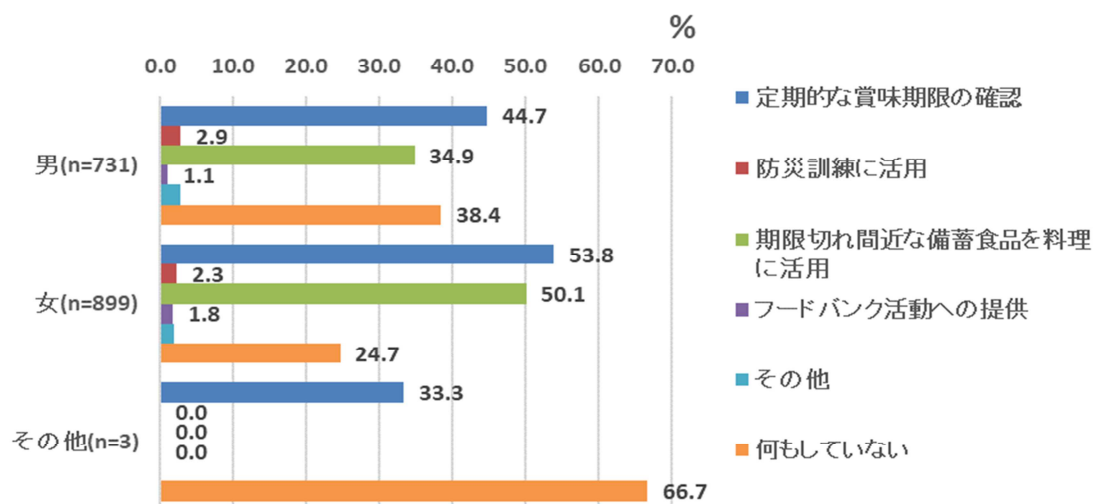
n=1633（無回答者 19 名を除く）

その他回答

・備蓄していない ・普段の物で代用している ・冷凍保存 ・使いきる ・欲しい人にあげる

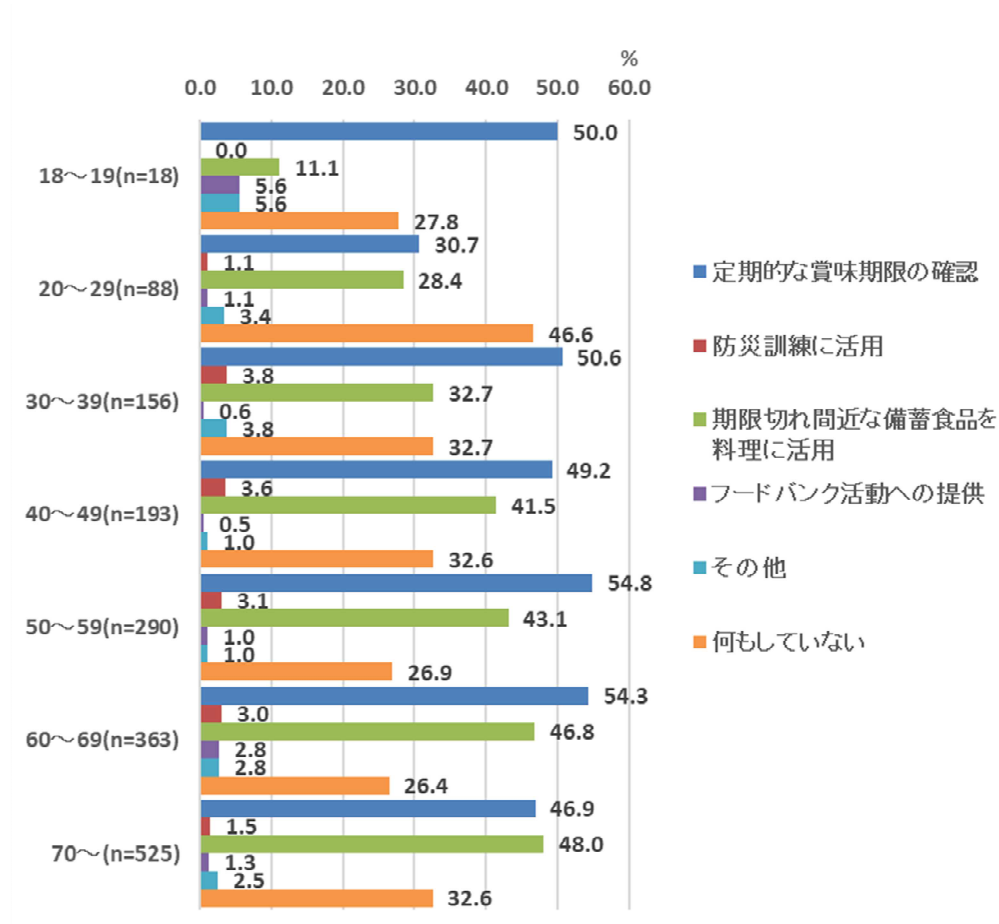
長期間にわたって保管している備蓄食品を無駄にしないために行っていることを尋ねたところ、「定期的な賞味期限の確認」が 49.7% となり、過半数に迫った。

### 問６－１×性別



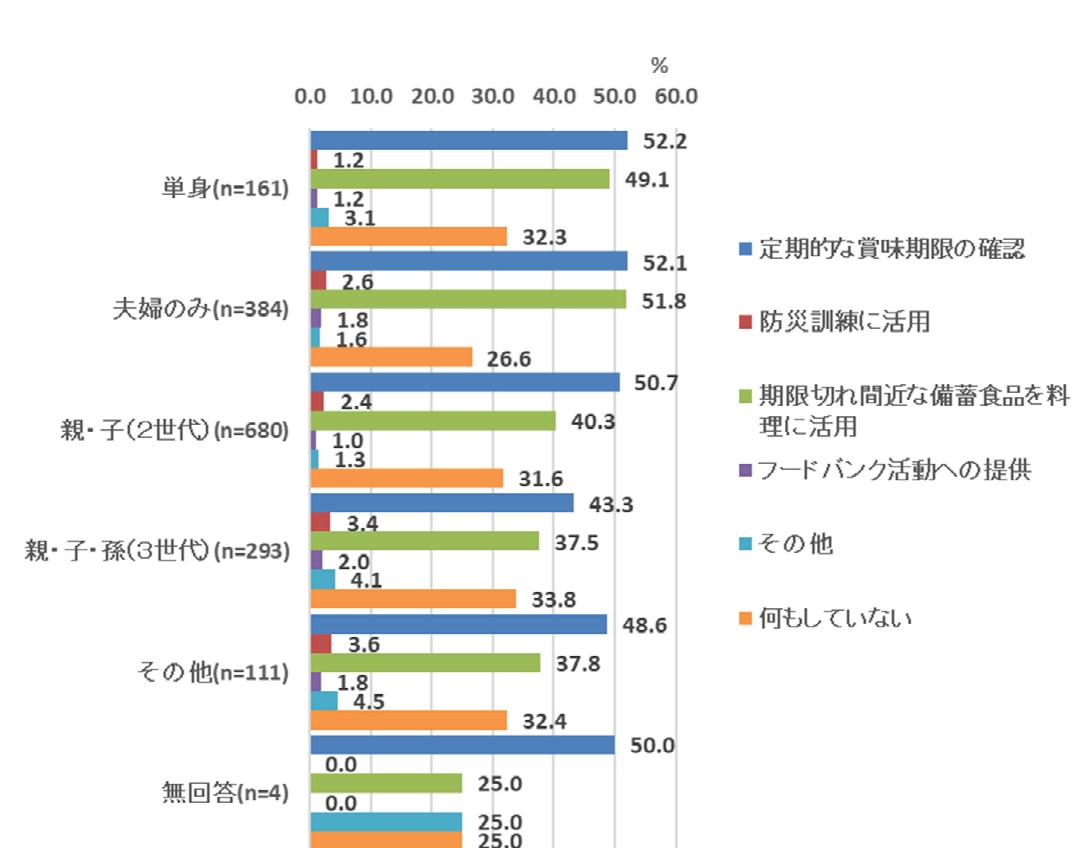
「定期的な賞味期限の確認」が女性で 53.8%、男性で 44.7%と最も高くなった。次いで、「期限切れ間近な備蓄食品を料理に活用」が女性で 50.1%、男性で 34.9%となった。

#### 問 6－1 × 年齢別



備蓄商品が無駄にしないことを年齢でみると、「定期的な賞味期限の確認」が 70 歳未満の年齢で最も高い割合となった。なお、「何もしていない」は 20～29 歳で 46.6%に達し、強い傾向がみられた。

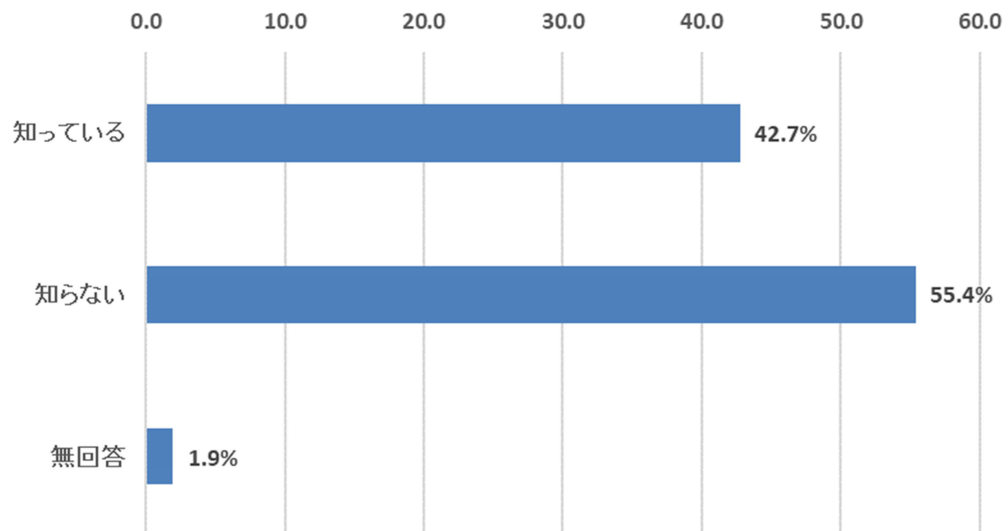
## 問6－1×世帯別



備蓄商品が無駄にしないことを世帯別でみると、すべての世帯において「定期的な賞味期限の確認」が最も高い割合となった。次いで、「期限切れ間近な備蓄食品を料理に活用」となった。

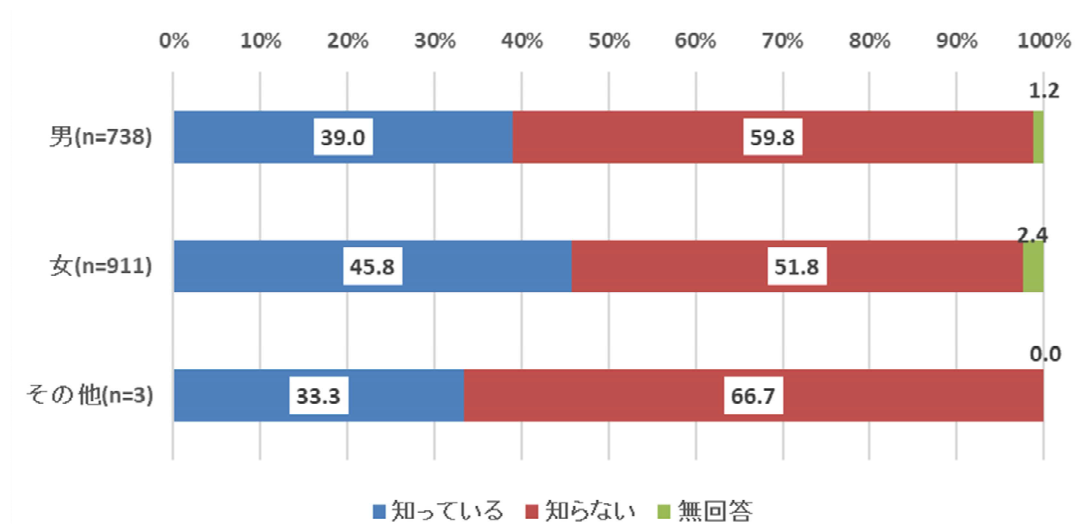
## （７）フードバンク活動などについて

問７－１ あなたは、「フードバンク活動」や「フードドライブ」を知っていますか。



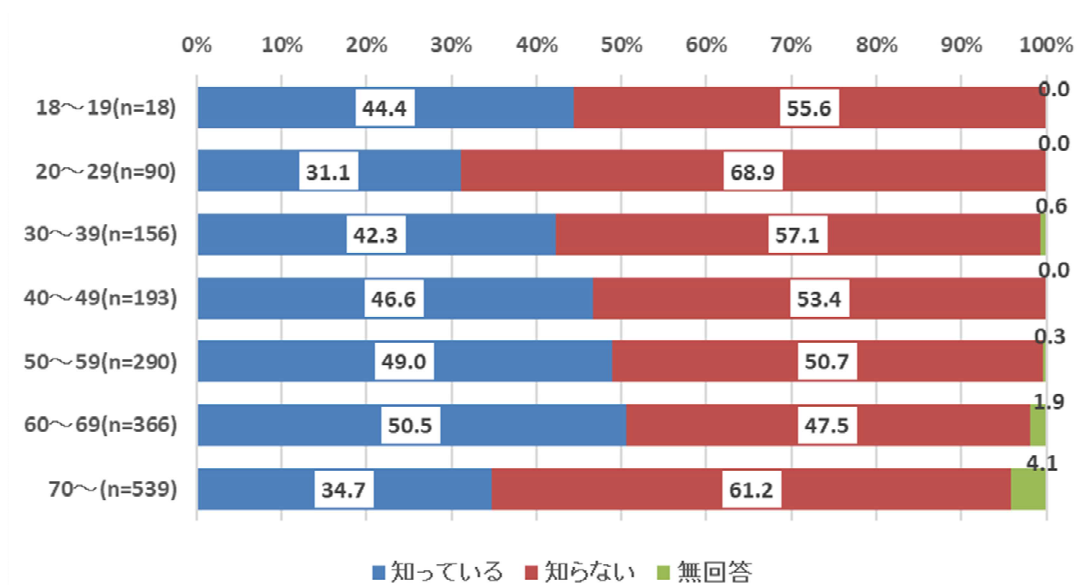
「フードバンク活動」、「フードドライブ」を知っていると回答した割合は 42.7%、知らないと回答した割合が 55.4%となった。

### 問７－１ × 性別



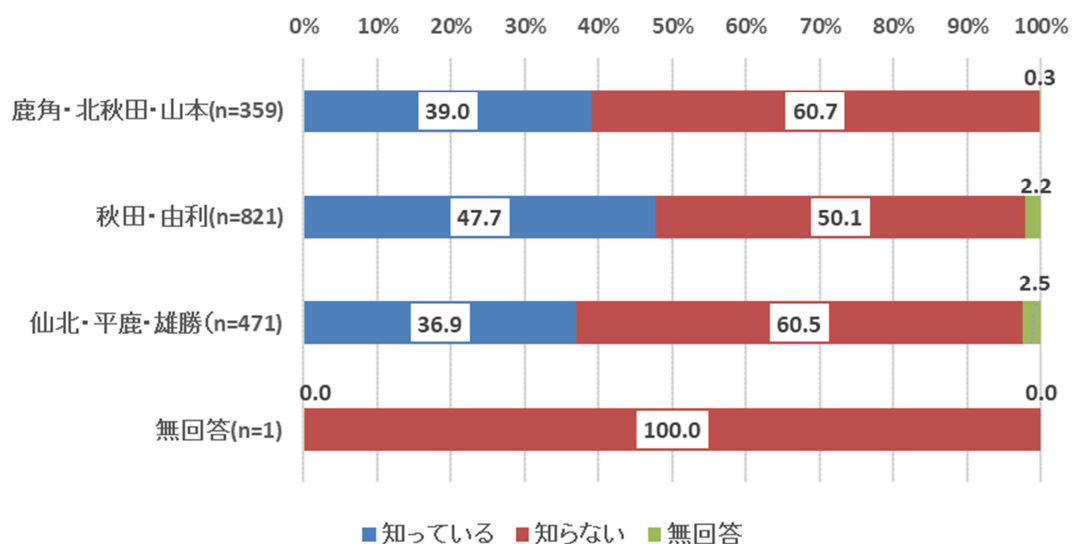
フードバンク活動を知っているかを尋ねたところ、すべてで「知らない」が5割を超える結果となった。「知っている」割合でみると、女性が高い傾向を示した。

### 問 7 - 1 × 年齢別



フードバンク活動を知っているかを年齢別でみると、60～69 歳で「知っている」が 5 割を超えた。20～29 歳と 70 歳以上で知っている割合が低い傾向がみられた。

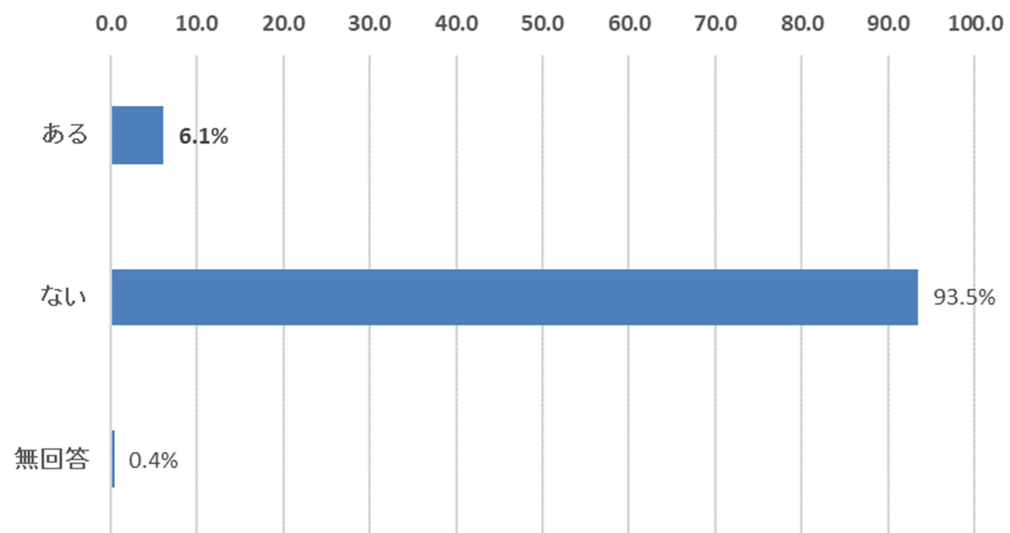
### 問 7 - 1 × 地域別



フードバンク活動を知っているかを地域別でみると、「秋田・由利地域」が 47.7% と最も高く、次いで「鹿角・北秋田・山本地域」が 39.0% となった。



問7-2 あなたは、フードバンク活動（フードドライブ）を実施している団体に対して、食料品の提供や支援をしたことがありますか。

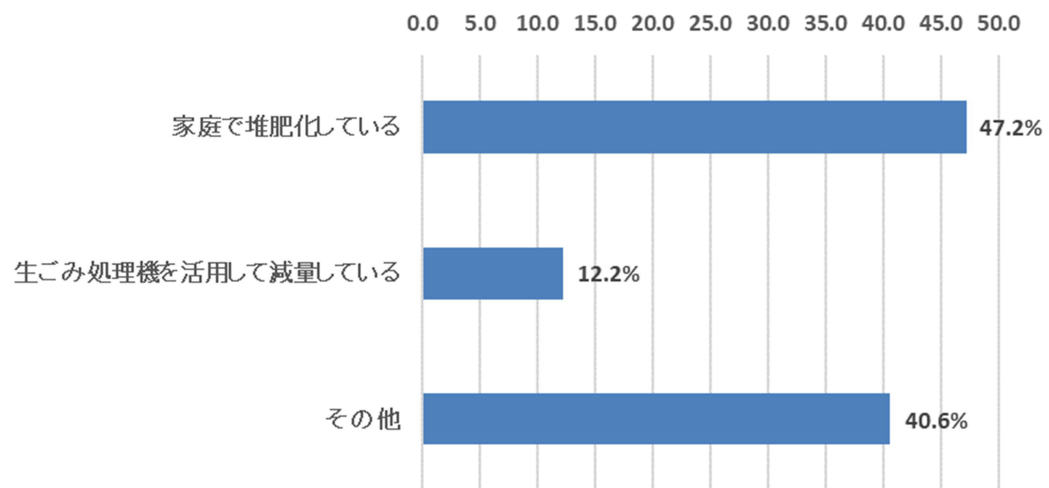


n=706（問7-1で「知っている」と回答した人数）

フードバンク活動（フードドライブ）を実施している団体に対して、食料品の提供の支援をしたことがあると回答した割合は6.1%にとどまり、93.5%がないと回答した。

(8) 資源やエネルギーの有効活用などについて

問 8－1 あなたは、食べ残したものについて有効利用等する取組を行っていただければ教えてください（複数回答）



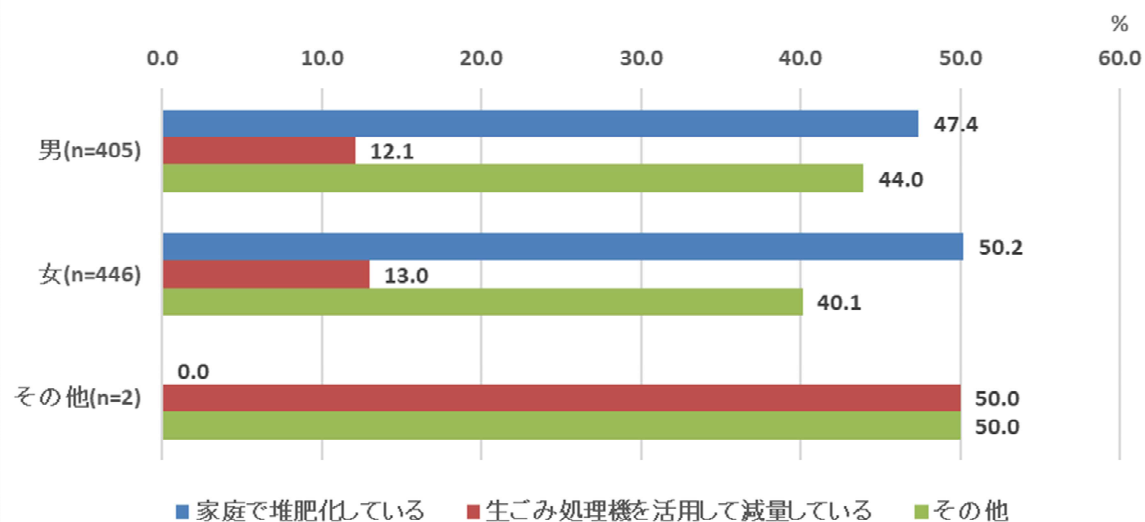
n=853（無回答者 799 名を除く）

その他回答

- ・取組していない
- ・食べ残ししない
- ・廃棄している
- ・堆肥場所を設けて欲しい
- ・畑に利用している
- ・ペットや魚のエサ
- ・自治体で推進する EM を利用した

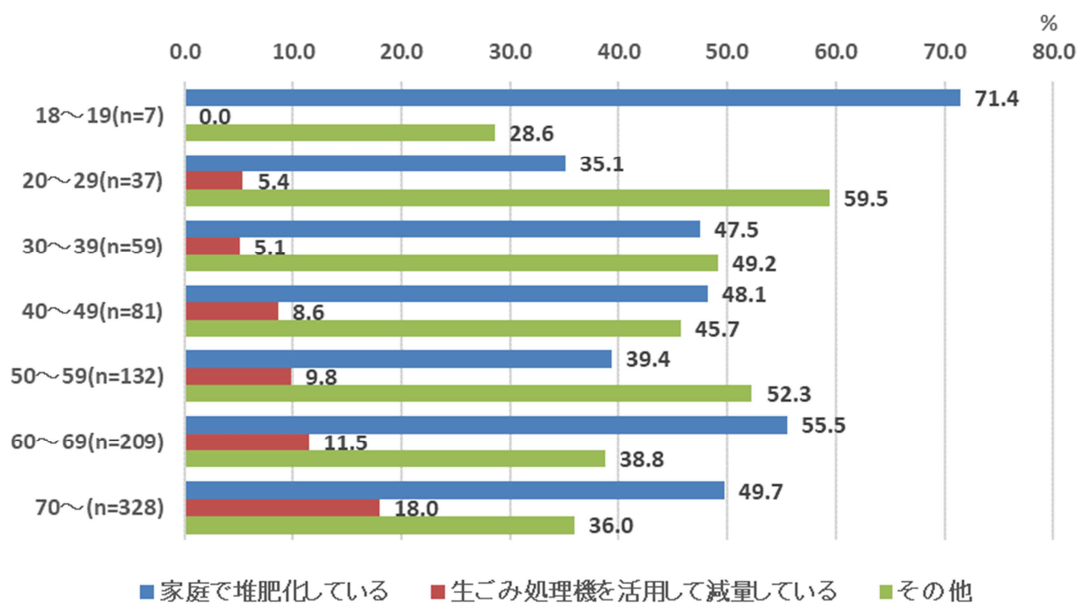
食べ残したものについて有効活用等する取組を行っているかを尋ねたところ、「家庭で堆肥化している」が回答者の 47.2% を占めた。

### 問 8－1 × 性別



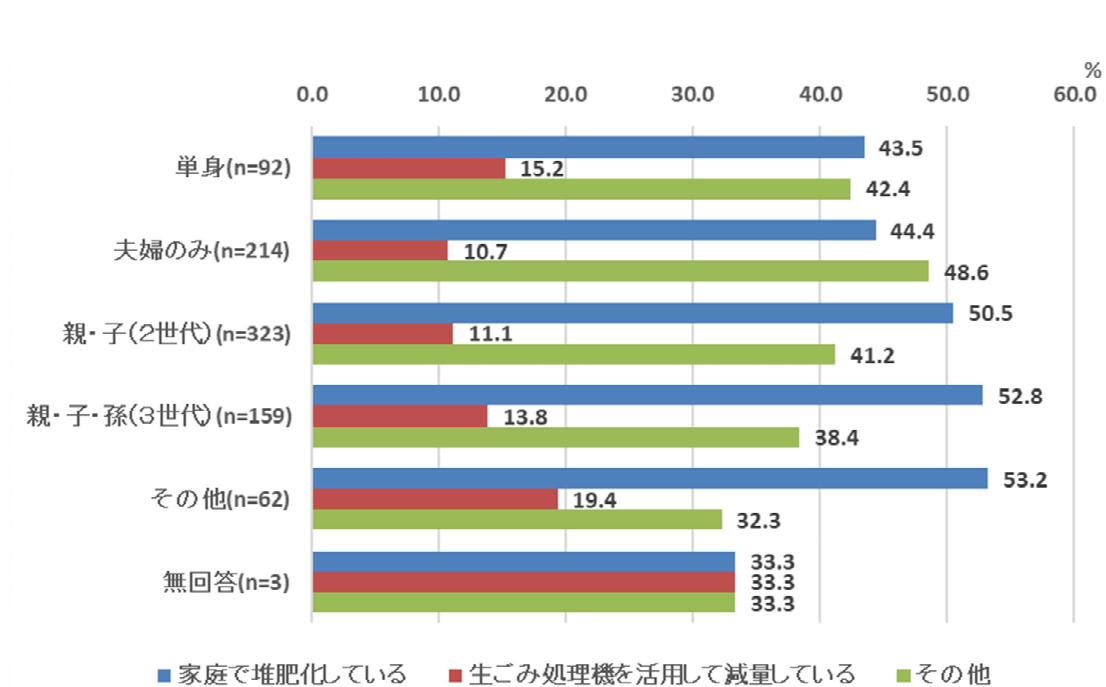
食べ残したものの有効活用等する取組を性別で見ると、男女ともに「家庭で堆肥化している」が最も高くなった。特に、女性は5割を超える結果となった。

### 問 8－1 × 年齢別



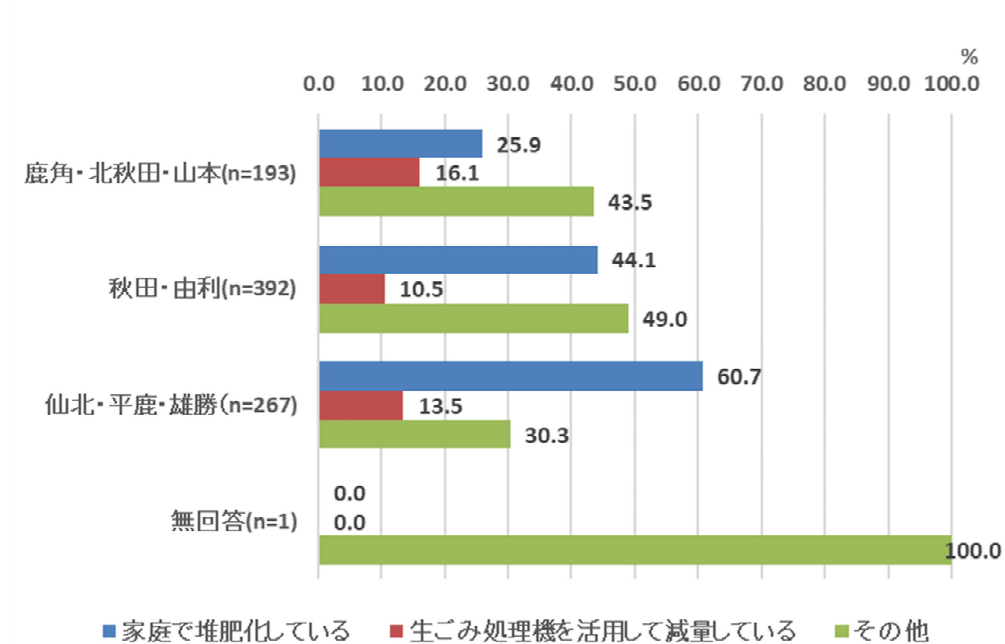
食べ残しの有効活用を尋ねたところ、「家庭で堆肥化している」が18～19歳、60～69歳で最も高かった。

### 問 8－1 × 世帯別



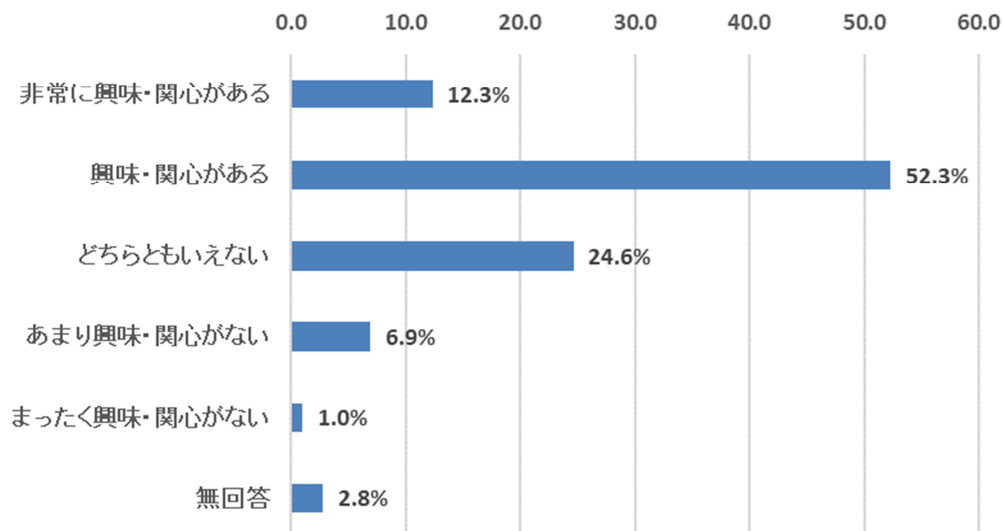
食べ残しの有効活用を尋ねたところ、親・子（2世代）、親・子・孫（3世代）、その他の世帯において「家庭で堆肥化している」が5割を超える結果となった。

### 問 8－1 × 地域別



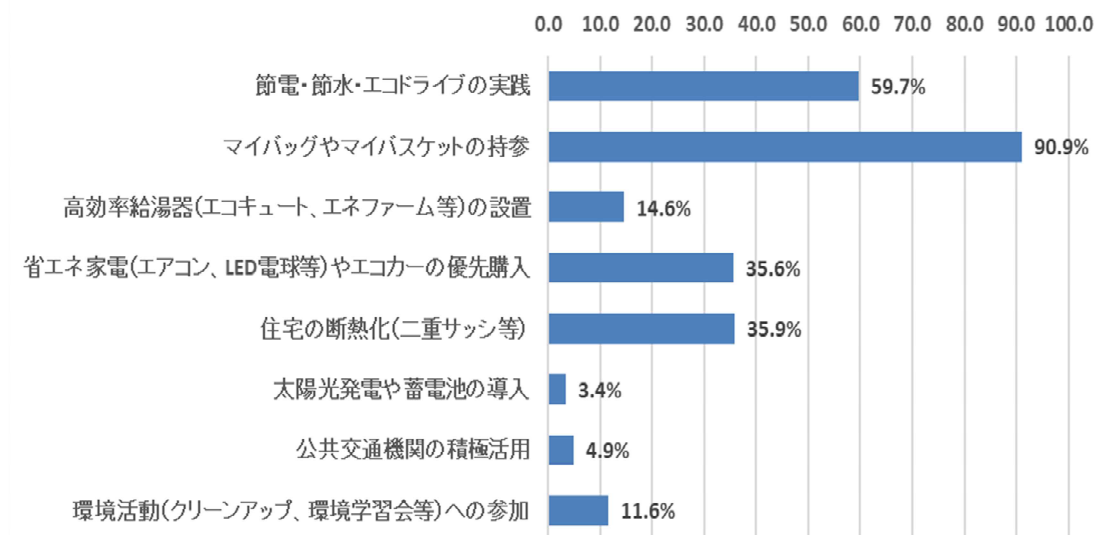
食べ残しの有効活用を地域別でみると、「家庭で堆肥している」と回答した割合が仙北・平鹿・雄勝地域で 60.7% となり、5 割を超える結果となった。

#### 問 8－2 あなたは、地球温暖化についてどの程度、興味や関心がありますか。



地球温暖化について、「興味・関心がある」が 52.3%、「非常に興味・関心がある」が 12.3% となり、64.6% が関心を示していることが判明した。

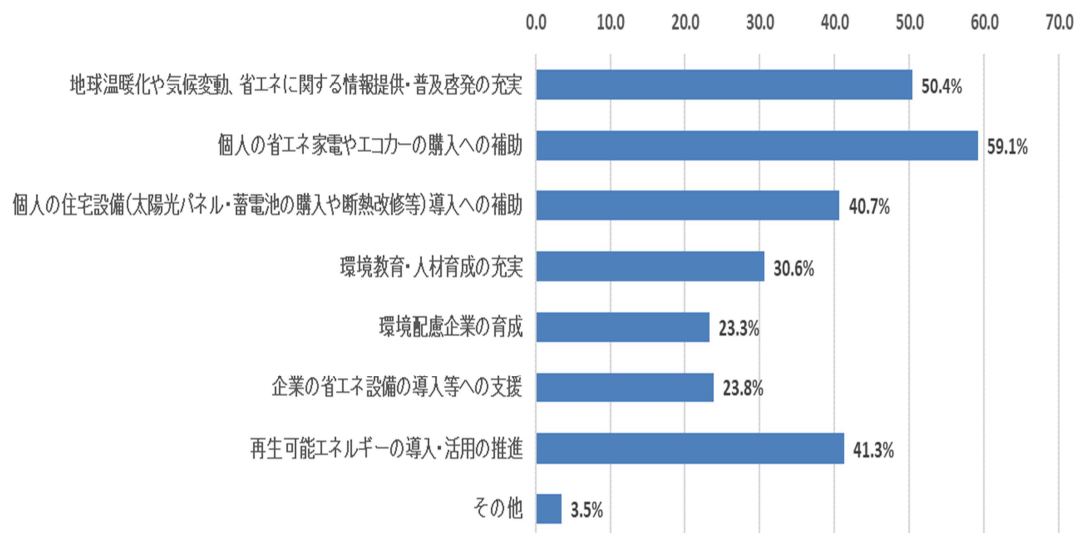
#### 問 8－3 あなたが取り組まれていることについて教えてください（複数回答）



n=1566（無回答者 86 名を除く）

「マイバッグやマイバスケットの持参」が 90.9% と最も高く、「節電・節水・エコドライブの実践」が 59.7% となり、比較的取り組みやすい項目が上位を占めた。

**問 8－4 あなたは、地球温暖化の防止に向けて、どのような取組を期待しますか（複数回答）**



n=1468（無回答者 184 名を除く）

**その他回答**

- ・地球温暖化自体が疑問 ・断熱強化の住宅義務化
- ・自治体からの補助→個人で余ったエネルギーを他へ還元できる仕組み
- ・スーパー等がエコ化していないのが現実です。買い手より売り手の認識を高めてください。  
例→プラスチックや発泡のパックではなく、紙パックの導入、特に鮮魚等
- ・子供達への環境教育の実践 ・森林の保守、量産 ・地熱発電の強化 ・原発の推進

地球温暖化の防止に向けて、「個人の省エネ家電やエコカーの購入への補助」が 59.1%、「地球温暖化や気候変動、省エネに関する情報提供・普及啓発の充実」が 50.4% となり、5 割を超える結果となった。